

平成 31 年（令和元年） 度

社会福祉法人 城島福社会
事業報告

- ふれあいの園 ケアプランサービス
- 特別養護老人ホーム ふれあいの園
- ふれあいの園 デイサービスセンター
- ケアハウス ふれあい荘
- ホームヘルプ
- 在宅支援室

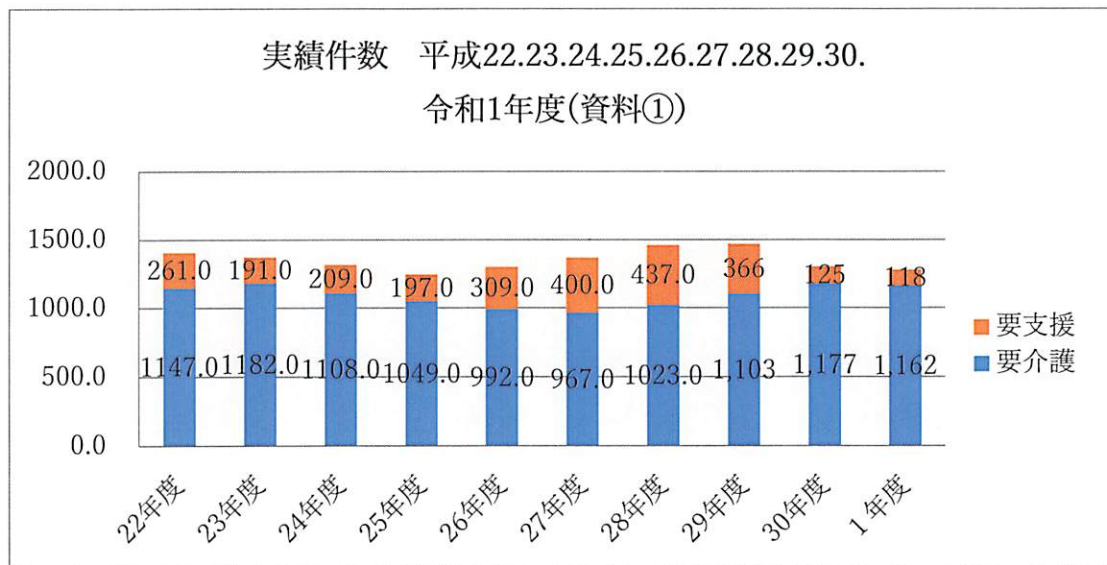
- ふれあいの園みづまケアプランサービス
- ふれあいの園みづま館小規模多機能型居宅介護
- ふれあいの園みづま館認知症対応型通所介護

平成 31 年度 ふれあいの園ケアプランサービス

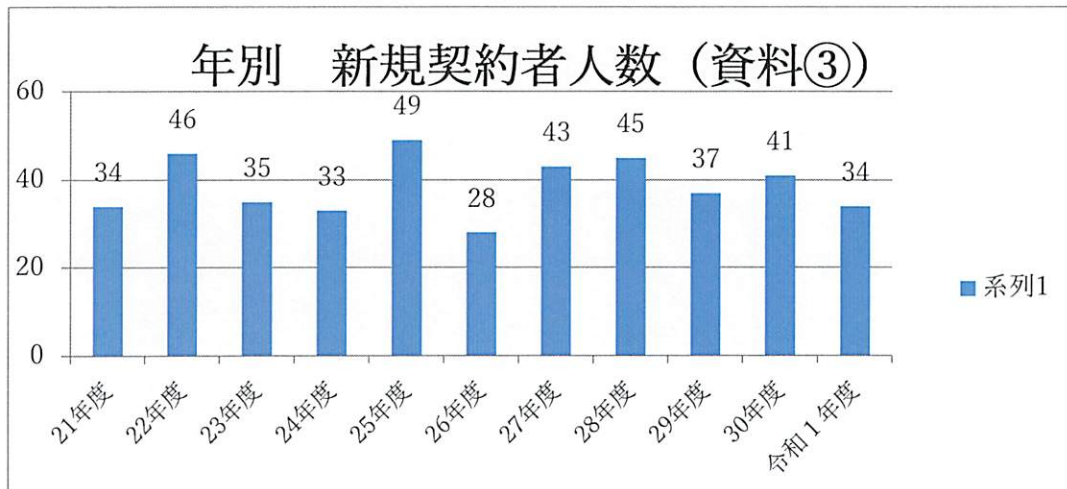
事業報告書

実績について（資料①②）

昨年度と比べますと、要介護者で15件減、要支援者で7件減でした。介護支援専門員1人当たりの基準担当件数は月/35件となっており、要支援者を0.5件で計算し、今年度の稼働率は、介護支援専門員3名体制で97%でした。昨年度は98.4%でしたので、引き続き高い稼働率を維持できています。



収入	令和1年度目標数	令和1年度実績	達成率	平成30年度実績		
利用者延べ数	1,240	1,221	98%	1,240		
総収入	18,431,000	17,503,836	95%	17,705,950		
支出	予算額	実績額	執行率	人件費率	職員増減数	
事業費支出	2,244,000	2,188,107	98%	93%	増 0 名	
事務費支出	956,000	759,343	79%		減 0 名	



・介護度別の利用者人数について (資料③)

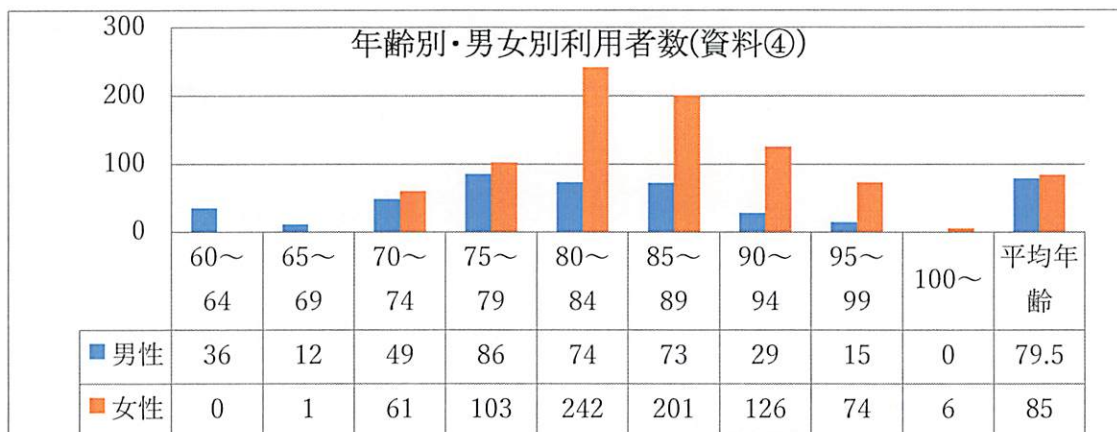
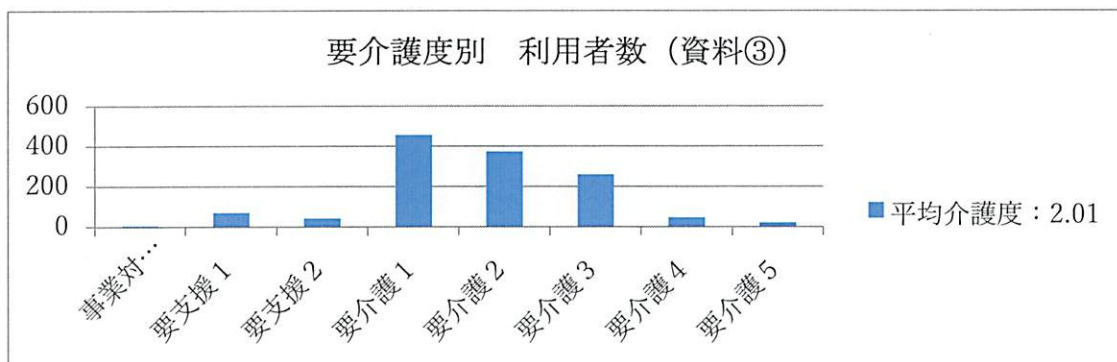
平均要介護度は 2.01

男性 2.19、女性 1.94、昨年度とほぼ変わりません。

(平均要介護度は要支援以下を 0.375 として計算しています。)

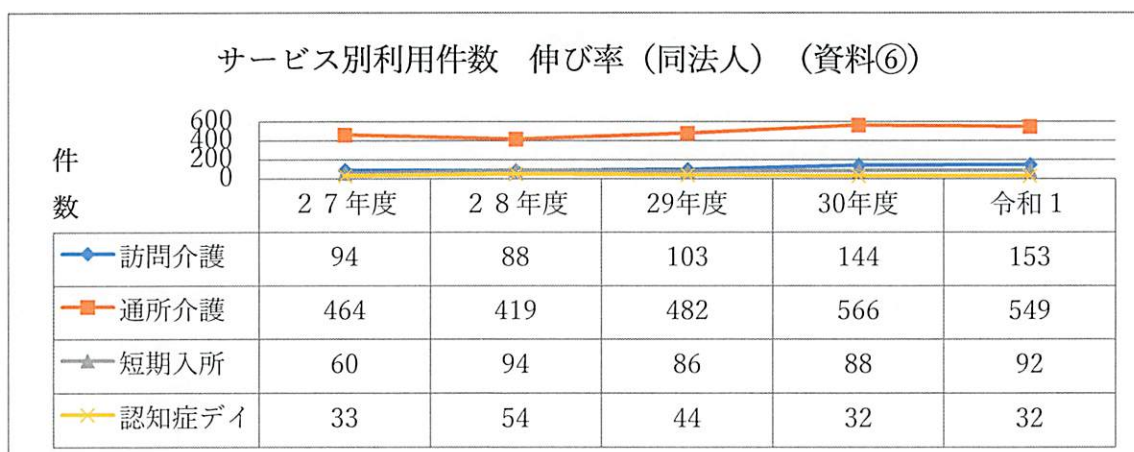
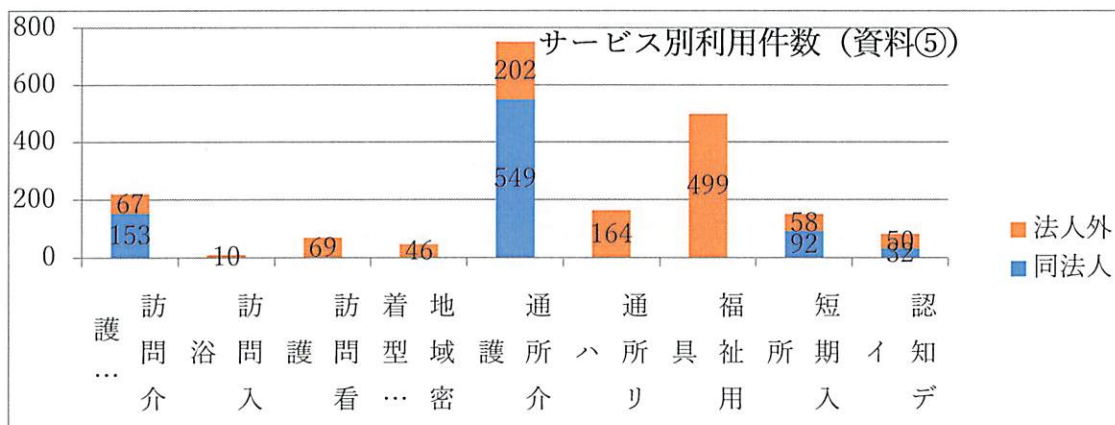
・平均年齢について (資料④)

平均年齢 83.5 歳、男性 79.7 歳、女性 85.3 歳、昨年度とほぼ変わりません。



・サービス別利用件数について（資料⑤⑥）

同一法人のサービス別利用件数については、昨年度までは通所介護や訪問介護は伸びていましたが、今年度は、ほぼ横ばいの状態です。訪問介護が若干、伸びていますが、重度の利用者に対して、家族の介護負担軽減から身体介護を希望されるニーズがあっても、ヘルパーの人材不足から、介護サービスが十分に供給できなくなっており、今後、必要な介護が自宅で受けられない、介護難民が増えてくることが予想されます。



重点目標について

1、専門性の高い支援ができるよう努める

・介護支援専門員の資質の向上に努めるよう、外部、内部研修（別紙参照）はもちろん、週1回の事例検討会の開催と、みづま館と共同で外部講師を迎え、アローチャート研修を年5回実施し、課題分析力、計画立案力の向上に努めてきました。

2、地域との連携に努め、在宅生活の限界点を高める。

・医療や介護などの公的な在宅サービスだけではなく、地域のボランティアや住民組織の支援を活用し、地域で見守る体制を構築し、独居や認知症高齢者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう支援しました。

3、業務の効率化、新規利用者の確保

- ・メールやファックス等を活用し、連絡業務の効率化をより進め、P Cやスキャン機能を活用することで記録業務の効率化を図っています。
- ・地域包括支援センターより積極的に困難事例を受け入れるとともに、近隣の医療機関にも広報活動を実施し、事例を通じて信頼関係を構築することにより、新規利用者への紹介につながっています。

令和元年度 居宅介護支援研修一覧

日付	時間	内容
5月12日	14:30～15:30	内部研修 倫理法令 個人情報保護
5月19日	18:30～20:30	アローチャート研修
5月22日	13:30～14:30	集団指導
6月7日	14:00～15:30	事例検討会
7月18日	18:30～20:30	アローチャート研修
8月8日	14:00～15:30	事例検討会
9月19日	18:30～20:30	アローチャート研修
10月2日	14:00～15:30	自立支援地域ケア会議開催に伴う課題整理総括表の確認会
10月18日	13:30～16:00	認知症ケアマネジメントスキルアップ研修会
10月4日	13:30～15:30	内部研修(補聴器・集音器等について)
11月9日	10:30～14:00	くるめ福祉みらい博 専門職向けシンポジウム
11月21日	18:30～20:30	アローチャート研修
11月22日	14:00～16:00	ケアマネよらん会
12月7日	15:00～17:00	医療介護連携に伴う情報共有研修会
12月12日	14:00～15:30	事例検討会
1月8日	13:30～15:30	課題整理総括表研修
1月16日	18:30～20:30	アローチャート研修
2月18日	10:30～16:30	久留米市介護サービスケアプラン指導研修会
3月27日	16:15～17:00	内部研修 感染症対策の基礎知識

平成 31 年度 事業報告書

特別養護老人ホームふれあいの園

1. 令和 1 年度の利用状況と実績について

年度入所者延べ日数について

要介護度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
要介護 1	30	31	30	31	30	0	0	0	0	0	0	0	153
要介護 2	90	93	90	93	124	150	155	143	155	155	174	173	1595
要介護 3	540	549	484	471	465	450	467	455	453	419	349	391	5493
要介護 4	551	575	539	559	555	514	566	517	586	577	462	540	6541
要介護 5	232	233	223	278	252	296	279	307	333	342	372	368	3515
計	1443	1481	1366	1432	1427	1410	1467	1422	1527	1493	1357	1472	17297
稼働率	93%	96%	91%	92%	92%	94%	95%	95%	99%	96%	97%	95%	95%
26 年度	1327	1401	1272	1397	1426	1316	1290	1205	1359	1351	1133	1206	15683
27 年度	1307	1331	1296	1364	1372	1359	1363	1329	1363	1354	1335	1417	16241
28 年度	1307	1314	1348	1349	1283	1295	1288	1250	1436	1463	1419	1485	16241
29 年度	1431	1491	1444	1442	1406	1377	1425	1383	1451	1422	1277	1361	16910
30 年度	1353	1414	1402	1474	1463	1358	1466	1434	1547	1507	1285	1419	17122



令和 1 年度の入所延べ日数は、17297 日、ベッド稼働率は、95%でした。1 年度は、久留米市より 1 名の措置入所利用があり、延べ 7 日受け入れを行いました。1 年度は 30 年度と比較し 175 日（1%）増加しています。

入所待機者の状況について

令和 1 年度の入退所状況は、新規入所者 8 名、退所者 11 名でした。待機者の状況においては、令和 2 年 3 月末現在で 64 名となっています。30 年 3 月末は 56 名でしたので、8 名増加しています。

行事について（別紙 1 参照）

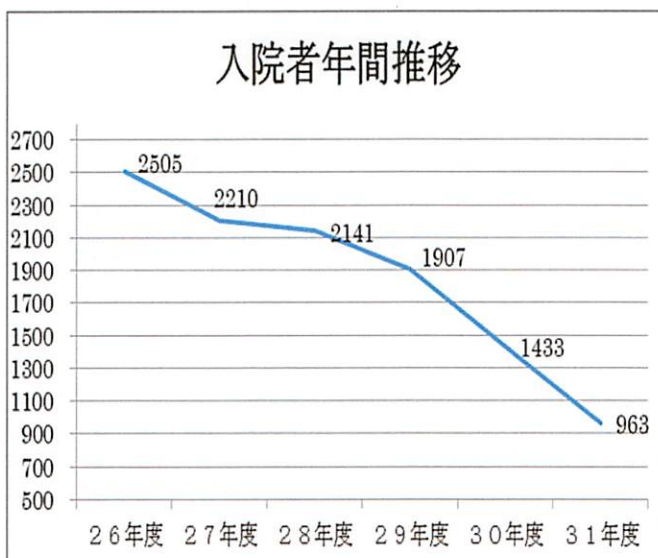
ファミリー会を通じ、家族へ行事の案内を出し家族の参加を促しております。家族の行事参加もバーベキュー、夏は納涼祭、秋は敬老会と家族の参加が定着化しつつありますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、花見会は中止としております。

入院者の状況について

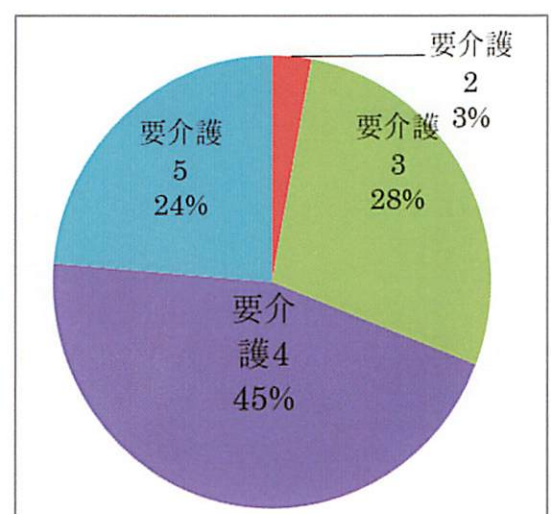
令和 1 年度入院延日数

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	15	28
要介護 3	30	16	56	56	27	0	6	25	12	2	28	12	270
要介護 4	26	21	47	58	30	56	37	36	3	36	60	27	437
要介護 5	30	15	17	1	31	30	34	36	8	0	11	15	228
計	86	52	120	115	88	86	77	97	23	51	99	69	963
入院者数	6	8	7	7	5	3	5	7	4	6	7	9	74
平均入院 日数	14.3	6.5	17.1	16.4	17.6	28.7	15.4	13.9	5.8	8.5	14.1	7.7	13.0
26年度	184	134	221	139	118	173	291	291	186	182	256	330	2505
27年度	258	197	150	176	164	149	199	194	212	227	132	152	2210
28年度	222	244	151	232	271	204	237	209	100	81	83	107	2141
29年度	122	107	100	147	191	183	186	176	158	195	164	178	1907
30年度	162	184	146	147	118	164	95	79	34	62	139	141	1433

入院者年間推移



令和 1 年度入院者介護度年間構成比



入院者の状況については、延べ入院日数 963 日、1 日平均入院者数 2.6 名でした。30 年度と比較すると延べ入院日数は 470 日、1 日平均入院者数 1.3 名減少しております。

要介護度別では、要介護 4 の利用者がもっとも多く 45%、要介護 5 の利用者と合わせると全体の 69% を占めています。

2. 平成31年度事業計画の評価について

1. 介護サービスの質の均質化と効率化、介護職員の労働負担軽減について

31年度においては、介護サービスの質の均質化の為、各種委員会活動、施設内部研修を行いました。(研修、各委員会については別紙参照)

介護職員の労働負担軽減について、介護ロボット等の導入には至りませんでした。スライディングボードを2枚導入し、また、始業前に腰痛体操を実施しています。令和2年度については、介護ロボットや福祉機器について積極的に導入検討していきたい。

2. 感染症対策の強化及び入院者の対応について

感染症対策について、感染症対策委員会を4回開催しました。インフルエンザについては、出勤時の体温測定と消毒ボトルを携帯させ、その都度手指消毒を実施した結果、利用者のインフルエンザ感染者はいませんでした。

新型コロナウイルス対策について、職員は出勤前の体温測定実施と家族の面会については、タブレットを使用したオンライン面会のみとし、利用者の処遇についても職員から感染者が出た場合に、利用者間で感染を広げない為、利用者同士が密接にならないように食堂のテーブル配置を広げて対応している。

入院者の対応については、病院のソーシャルワーカーと連携し、退院や退所がスムーズに行う事が出来、入院日数の減少につながった。

3. 収支の状況について

収入の部	31年度目標数	1年度実績	達成率
利用者延べ数	17,114 人	17,297 人	101%
総収入	188,277,000 円	193,711,978 円	102%

支出の部	予算額	実績額	執行率	人件費率	職員増減数
事業費支出	34,744,000 円	33,784,676 円	97%	69%	増 4名
事務費支出	8,334,000 円	10,091,032 円	121%		減 3名

4. 今後の課題について

昨年に引き続き、内部、外部研修、OJTによる介護サービスの質の均質化を図ります。また、介護職員の労働負担軽減のため、福祉機器の視察を行い介護ロボットや福祉機器の導入をしていきます。

別紙 1

令和元年度行事

	行事名	月日	行き先(場所)
1	花まつり	平成31 年4月8日	食堂
2	バーベキュー会	令和元年5月25日	中庭
3	バスハイク	令和元年6月5日、11日	風浪宮
4	納涼祭	令和元年7月27日	中庭
5	敬老祝賀会	令和元年9月21日	食堂
6	バスハイク	令和元年 10 月 21 日 令和元年 11 月1日、2日	七木地蔵
7	クリスマス・忘年会	令和元年12月26日	食堂
8	もちつき	令和元年12月27日	中庭
9	ほっけんぎょう	令和2年1月15日	園庭
10	節分	令和2年2月3日	食堂

その他の行事

誕生会	月 1 回
移動販売	月 1 回

研修	日時	参加数	委員会	日時
身体拘束研修	31年4月17日	18 名	事故防止委員会	1年6月24日
	1年11月20日	11名		1年9月19日
感染症予防研修	1 年 9 月 25 日	22 名		1年12月19日
	1年10月16日	16名	虐待防止委員会	1年 5 月 18 日
事故防止研修	1年 11 月27日	21名		1年11月20日
ケアテックス福岡(福祉機器)	1年7月3日	4名	感染症委員会	1年6月14日
感染症予防研修(外部)	1年6月13日	1名		1年8月27日
認知症介護実践者研修	7回	2名		1年11月20日
認知症介護基礎研修	1年5月22日	1名		2年2月27日
高齢者虐待防止研修	1年9月20日	2名		
腰痛予防福祉用具研修	4回	1名		
看護師リーダーシップ研修	1年7月30日	1名		
新人看護職員基礎研修	1年6月26日	1名		

平成 31 年度 事業報告書

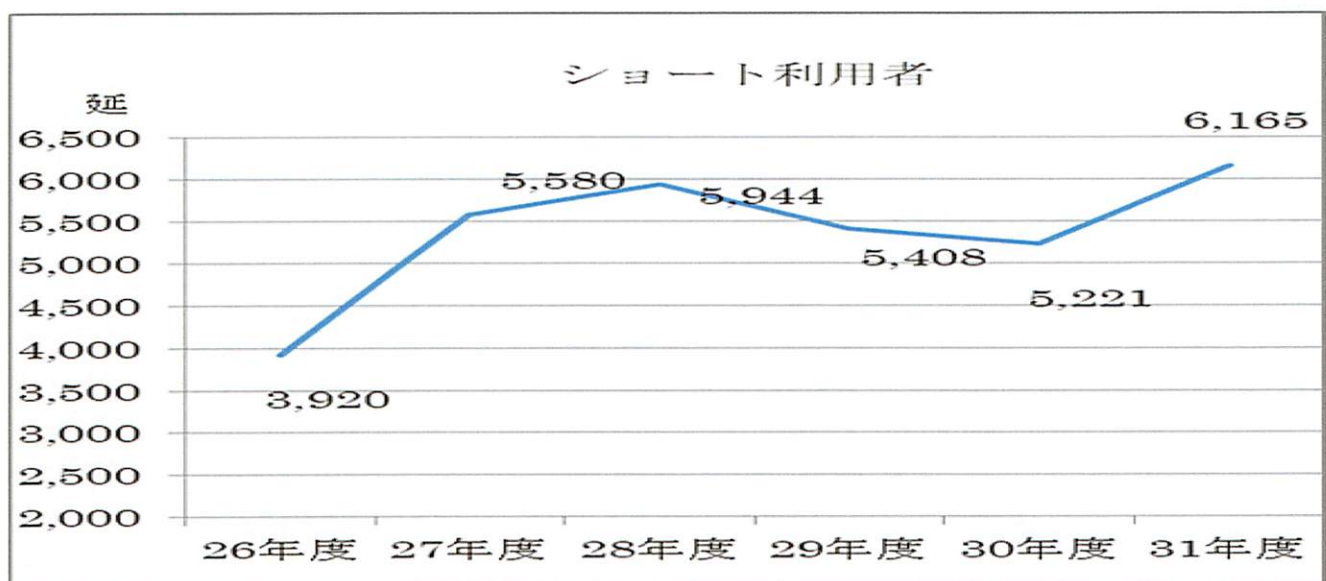
特別養護老人ホームふれあいの園

短期入所生活介護

1. ショート利用者の延べ日数について

令和 1 年度利用延べ日数

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	11	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	15
要介護 1	46	85	115	103	98	104	111	89	91	71	66	60	1039
要介護 2	5	30	37	61	77	59	89	104	106	102	95	100	865
要介護 3	103	149	157	168	182	187	168	185	206	183	178	249	2115
要介護 4	160	145	90	80	98	143	142	136	174	159	156	147	1630
要介護 5	66	66	67	93	90	61	30	13	4	7	4	0	501
合計	380	486	466	505	545	554	540	527	581	526	499	556	6165
稼働率	63%	78%	75%	81%	88%	92%	87%	88%	94%	85%	89%	90%	84%
利用者数	27	34	29	29	31	32	27	29	28	33	34	21	
(長期利用者)	(8)	(10)	(12)	(14)	(14)	(16)	(15)	(15)	(15)	(15)	(14)	(19)	
26 年度	460	382	382	351	315	301	260	271	240	221	340	397	3,920
27 年度	434	435	508	537	542	446	380	483	465	405	452	493	5,580
28 年度	453	445	376	458	603	582	561	540	501	495	445	485	5,944
29 年度	466	443	422	417	495	496	513	467	364	474	327	524	5,408
30 年度	428	526	434	317	333	470	467	454	439	471	469	413	5,221

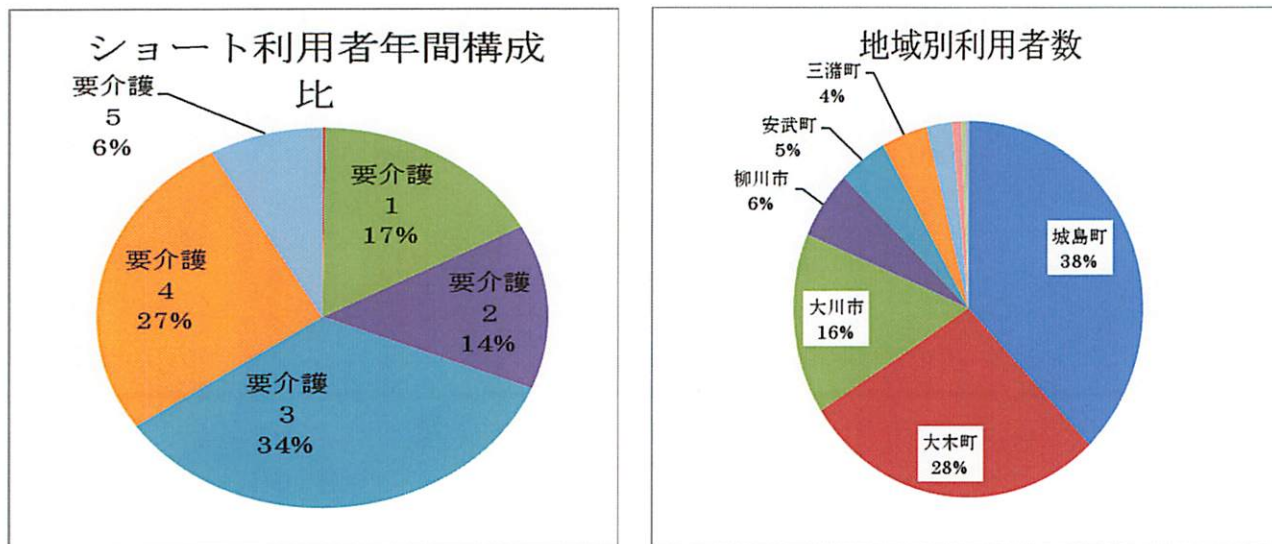


令和 1 年度の延べ利用日数は 6 1 6 5 日、ベッド稼働率は 8 4 % でした。3 0 年度と比較すると、利用日数は 9 4 4 日増加、ベッド稼働率は 1 2 % 増加しています。

増加した要因として、20名のショートベット数のうち、14名～15名のショートステイ長期利用者を受け入れたことが考えられます。

久留米市から委託を受けております生活支援ショートステイ利用については、令和1年度の利用はありませんでした。

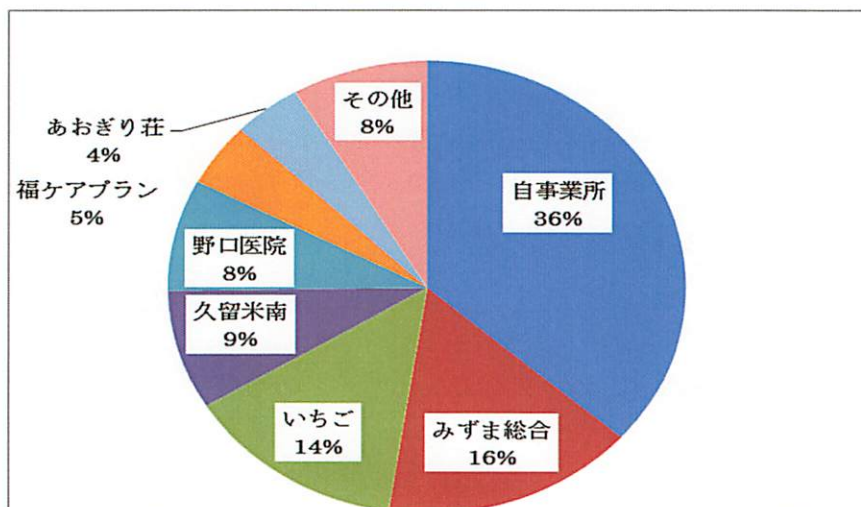
利用者の状況について



介護度別では要介護3の利用者が最も多く2,115日(34%)となっています。重度者(要介護4、5)においては、2,131日(33%)の利用日数となっています。昨年度と比較すると、要介護3の利用日数は変わりませんでしたが、重度者の利用日数は356日、軽度者(要介護1、2)は601日増加しております。

利用地域においては、城島町2,331日(38%)、大木町1,734日(29%)、三潆町262日(4%)、大川市956日(16%)となっており、旧三潆郡内で71%を占めています。昨年度と比較すると、城島町719日、大木町196日、大川市531日増加しており、三潆町で372日減少しております。

担当居宅支援事業所



担当の居宅支援事業所については、自事業所（ふれあいの園ケアプランサービス、みづまケアプランサービス）の利用日数は2, 252日（37%）、他事業所の利用日数3, 913日（63%）でした。昨年度と比較すると、自事業所750日、他事業所204日増加しております。

2. 平成31年度事業計画の評価について

1. 介護サービスの質の均質化と効率化、介護職員の労働負担軽減について

31年度においては、介護サービスの質の均質化の為、施設内部研修を、初級者、中級者に分けて行いました。（研修、各委員会については別紙参照）

介護職員の労働負担軽減について、介護ロボット等の導入には至りませんでした。スライディングボードを2枚導入し、また、始業前に腰痛体操を実施しています。令和2年度については、介護ロボットや福祉機器について積極的に導入検討していきたい。

2. 感染症対策の強化及び入院者の対応について

感染症対策について、感染症対策委員会を4回開催しました。インフルエンザについては、出勤時の体温測定と消毒ボトルを携帯させ、その都度手指消毒を実施した結果、利用者のインフルエンザ感染者はいませんでした。

新型コロナウイルス対策について、職員は出勤前の体温測定実施と家族の面会については、タブレットを使用したオンライン面会のみとし、利用者の処遇についても職員から感染者が出た場合に、利用者間で感染を広げない為、食堂における食事を中止し、基本的には自室での食事と嚥下が悪く窒息の危険がある方などは、職員の見守りが出来る場所での食事提供を行っている。

3. 収支の状況について

収入の部	31年度目標数	1年度実績	達成率
利用者延べ数	5840 人	6165 人	106%
総収入	64,779,000 円	64,800,602 円	100%

支出の部	予算額	実績額	執行率	人件費	職員増減数
事業費支出	10,156,000 円	10,638,643 円	104%	26,373,560 円	増 4名
事務費支出	2,504,000 円	2,154,018 円	86%	40%	減 3名

4. 今後の課題について

昨年に引き続き、内部、外部研修、OJTによる介護サービスの質の均質化を図ります。また、介護職員の労働負担軽減のため、福祉機器の視察を行い介護ロボットや福祉機器の導入をしていきます。

平成 31 年度 ふれあいの園デイサービスセンター 事業報告書

I、年間稼働日数

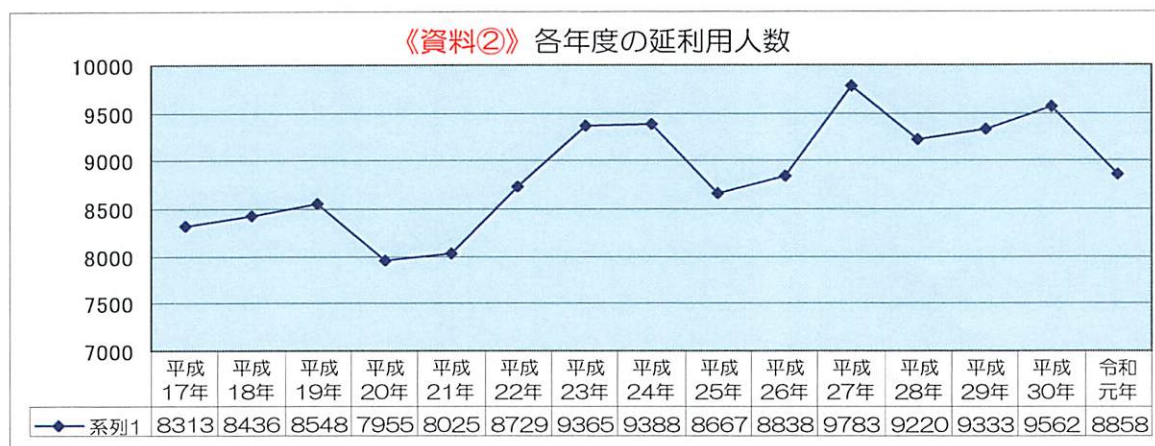
	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
稼働日数	362 日	362 日	361 日

- ・ 自然災害などの影響はありませんでしたが、元日の休業および 3 月にコロナウイルス感染症の影響で日曜を 4 日営業休止したため合計 5 日間の休業がありました。

II、サービスの利用状況について

《資料①》

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
年間利用者延べ人数	9333 人	9562 人	8858 人
平日の平均利用者数	28.4 人	29.4 人	27.2 人
日曜日の平均利用者数	9.1 人	8.4 人	7.1 人

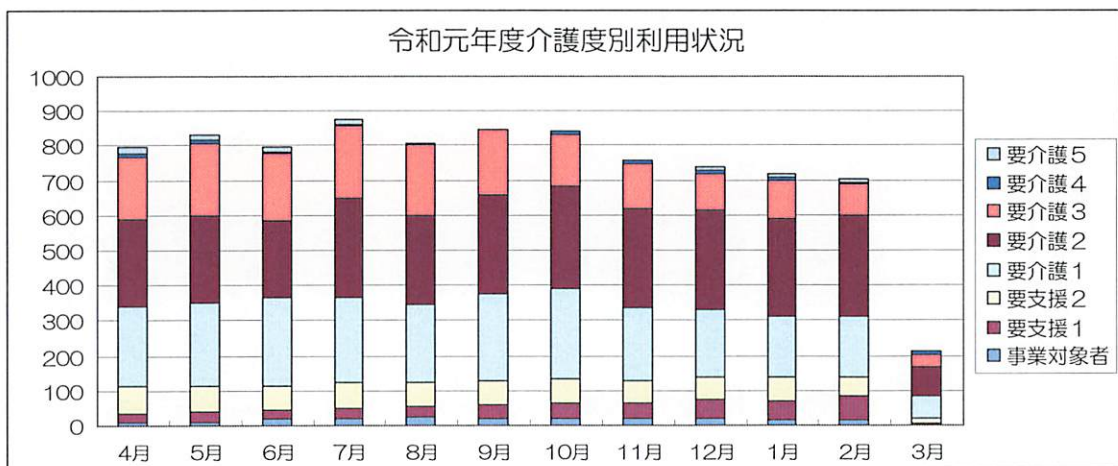
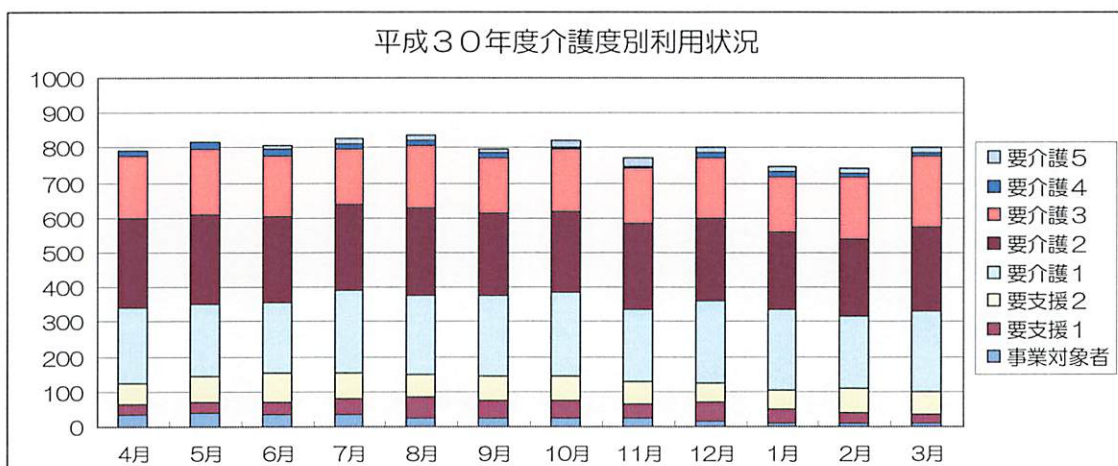
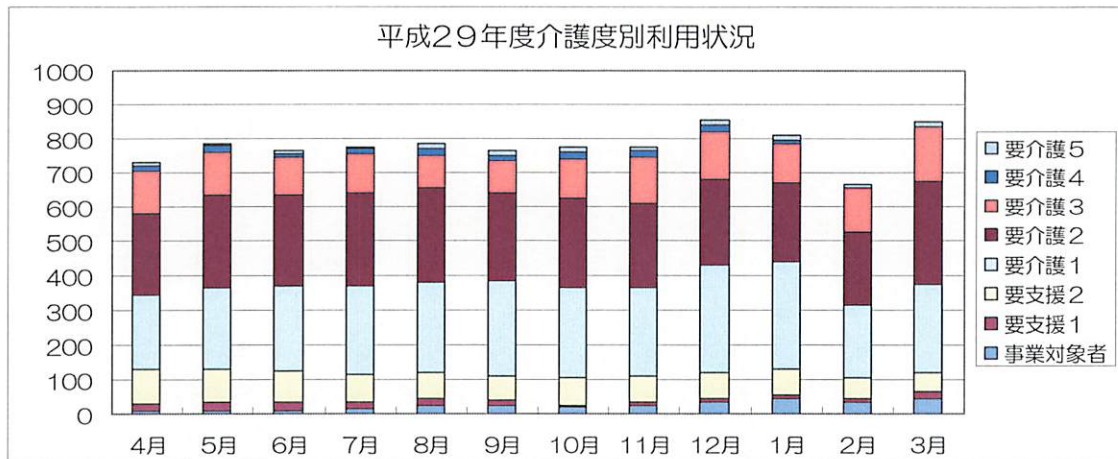


- ・ 令和元年度の年間の延べ利用数は、前年度比－7.3%。コロナウイルス感染症の影響で令和 2 年 3 月に大幅に営業体制を縮小したことが反映されています。(資料①・②)
- ・ 事業所の利用定員を[平日／介護 30 名、総合事業 10 名・日曜／介護 15 名]として、ひと月の稼働率は平均 67.4%となっています。

III、サービス利用者の状況について

サービス利用をしている利用者の状態像についてですが、平成 29 年度から令和元年度までの月ごとの利用数及び要支援・要介護状態別に示したグラフを掲載しています(資料③)。年度を追うごとに要介護 4～5 の重度の方の減少、総合事業である要支援 1～2 の方の利用数が増加しています。全体的に軽度の利用者が増える傾向にあると言えます。

《資料③》



IV、基本サービス報酬と加算について

①基本サービス報酬について（資料④介護度別各年度の報酬比較）

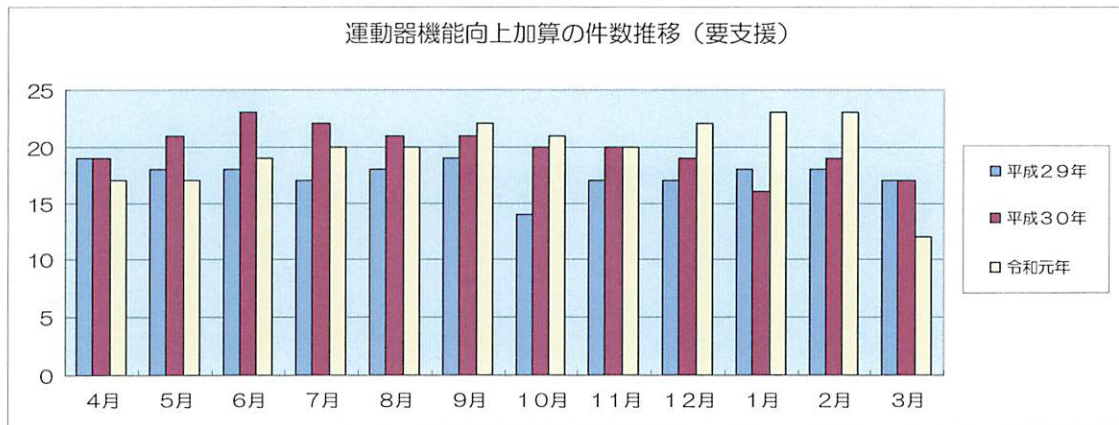
②入浴介助加算

平成29年…5991回（平成28年度より+9.2%）500円×5991回＝2,995,500円

平成30年…5952回（平成29年度より-0.7%）500円×5952回＝2,976,000円

令和元年…5407回（平成30年度より-9.1%）500円×5407回＝2,703,500円

③運動器機能向上加算（事業対象者、要支援1・2）



運動器機能向上加算

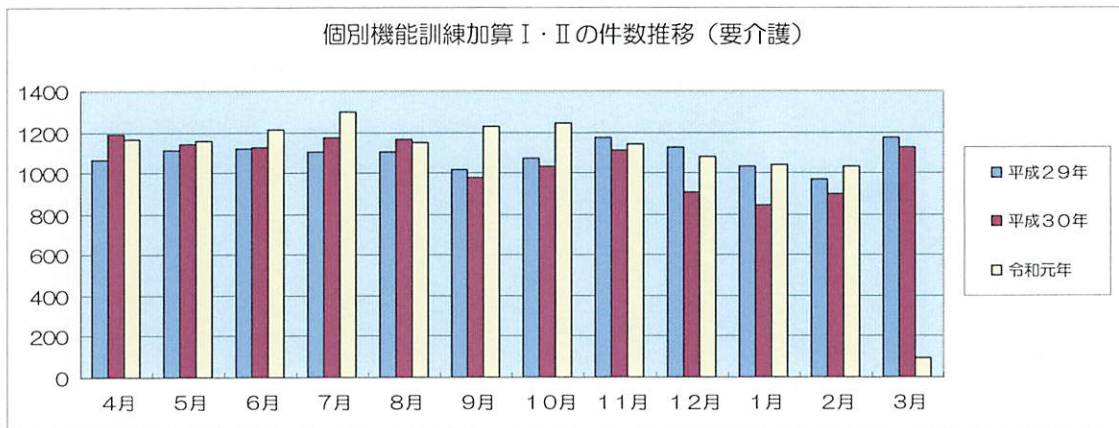
平成29年・・・210回（平成28年度より－20.2%） $2,250 \text{ 円} \times 210 \text{ 回} = 472,500 \text{ 円}$

平成30年・・・238回（平成29年度より＋13.3%） $2,250 \text{ 円} \times 238 \text{ 回} = 535,500 \text{ 円}$

令和元年・・・236回（平成30年度より－0.8%） $2,250 \text{ 円} \times 236 \text{ 回} = 531,000 \text{ 円}$

年度後半までサービスの利用回数は伸びましたが、3月の利用減少により昨年と殆ど同じ実績となりました。

④個別機能訓練加算



個別機能訓練ⅠとⅡの総数を合算すると

平成29年・・・13,051回（平成28年度より＋2.4%）

平成30年・・・12,706回（平成29年度より－2.6%）

令和元年・・・12,846回（平成30年度より＋1.1%）

令和元年度

【個別機能訓練加算Ⅰ】 $460 \text{ 円} \times 6148 \text{ 回} = 2,828,080 \text{ 円}$

【個別機能訓練加算Ⅱ】 $560 \text{ 円} \times 6698 \text{ 回} = 3,750,880 \text{ 円}$

配置職員の不足が無く年間を通して安定して加算算定できており、3月の大幅な減少分を差し引いても昨年よりも利用回数は伸びています。

平成30年度から運動器機能向上や個別機能訓練の外部連携への評価として、生活機能向上連携加算Ⅱ（100単位/月）を算定可能になりました。

【生活機能向上連携加算Ⅱ】1,000円×896回＝896,000円

⑤送迎減算について

	減算数		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
要介護1	165	183	160
要介護2	191	61	63
要介護3	162	140	167
要介護4	154	2	0
要介護5	205	251	102
合計	877	637	492

通所利用時、送迎サービスを利用しなかった場合（家族送迎など）、片道－47単位（470円）が基本サービス費から減算されるものです。

470円×492回＝231,240円 令和元年度の基本サービスの報酬から減算されています。

V、目標の収入と実績について

収 入			
科目	予算額	実績額	達成率
介護保険事業収入	77,417,000	72,773,544	94%

支 出			
科目	予算額	実績額	達成率
人件費支出	53,182,000	56,530,273	106.3%
事業費支出	9,942,000	9,153,949	92.07%
事務費支出	4,424,000	4,726,264	106.83%

（人件費率 77.68%）

VI、利用登録の状況について

① 新規利用の経路

みづま居宅	城島居宅	包括	その他居宅	合計
3件	7件	7件	4件	21件

②利用終了の事由

他界	特養 入所	長期 入院	長期 SS	みづま 館へ	他施設 入所	本人 都合	他事業 所へ	合計
4件	1件	6件	1件	1件	10件	4件	0件	27件

新規利用の相談は 21 件と少なくなっており(コロナ禍のため 3 月自粛の影響あり)、その中でも地域包括支援センターを介した総合事業の利用相談が半数ほどを占めています。利用中止の事由として他界は少ない傾向でしたが、入所型の施設への移行や長期入院が多い経過となっています。

VII、令和元年度の取り組みについての評価

◎平成 30 年度の重点目標として以下の 4 点を挙げていました。

i,お客様・地域・求職者への丁寧な情報発信

- ・近隣市町の居宅介護支援事業所に対して、広報誌作成のタイミングで事業所の情報も合わせて発信しました。折り込みチラシの実施について、年度中盤までは利用数が多く空きがない状況であったため実施を見送っています。現在は空きがあるため、利用数が伸びてくる時期（春や秋ごろ）に効果的に折り込みによる情報発信ができるよう準備している状況です。ただし 3 月のコロナウイルス感染症の影響により営業を自粛、新規利用の相談を保留、積極的な営業（利用の促進）ができない状況が生じています。

ii,機能訓練についての評価方法の見直し

- ・『ADL 維持加算』の要件である『バーセルインデックス』（以下、BI）の評価法を実施し、31 年度中も継続して記録及び報告を実施しました。要介護の方への身体機能測定による評価の試験的な導入については、総合事業の利用者（もともと身体機能測定を実施する対象者）が昨年末より 10 名程度増加したためそちらの対応に手間がかかり、計画していた要介護者への試験的な導入は見送りしました。

iii,サービス環境の整備と業務の効率化

- ・『通所での運動への取り組み』『感染症』についての施設内研修を実施し、介護サービス従業者に求められる知識について学びを深めました。
- ・お客様用トイレ（男性用便器を廃止し洋式便器のブースに変更する工事）を計画し施工しました。プライバシーへの配慮、車椅子利用者対応のスペース、洋式便座が増えたことによる利便性などが向上し良い効果が得られています。
- ・座敷用の椅子テーブルを導入しフロアーで過ごす際の居住スペースが過密になる状況を緩和しました。

VIII、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のための措置について

令和 2 年 3 月より、法人の判断にて法人内の事業の運営について、通常のサービス提供を一時中止し感染予防に努めるとの方針が出されました。通所介護事業については、自宅での入浴が困難又は家族介護では負担が大きいなどの状況にある方を対象に、3 月中は『自宅に訪問しての入浴介助』『短時間通所による特殊浴槽での入浴介助』の 2 通りの

サービスを個別に実施。令和２年度になりますが、４月からは段階的に短時間の利用を開始し、４月中旬には総合事業を含むほぼ全員の利用者が、短時間２部制（ＡＭ・ＰＭに分かれ）での通所を実施しています。状況に応じて丁寧に説明と対応を行うことで、利用者やその家族からの苦情やトラブルは生じていません。

令和２年３月の実績について《資料③》や『Ⅴ、目標の収入と実績について』でも確認出来るように、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のための措置を実施することにより大きく減少した結果となっています。

Ⅸ、令和元年度行事の実施状況

	行 事		行 事
平成 31 年 4 月	・桜見 ・演芸活動 ・シアターデイ ・ショッピング・誕生会	令和元年 10 月	・バスハイク（コスモス） ・シアターデイ ・ショッピング・誕生会
令和元年 5 月	・母の日 ・バーベキュー ・シアターデイ ・ショッピング・誕生会	令和元年 11 月	・バスハイク（七木地蔵） ・シアターデイ ・ショッピング・誕生会
令和元年 6 月	・バスハイク（大川） ・父の日 ・シアターデイ ・ショッピング・誕生会	令和元年 12 月	・クリスマス忘年会 ・ものづくりデイ ・シアターデイ ・ショッピング・誕生会
令和元年 7 月	・七夕 ・シアターデイ ・ショッピング・誕生会	令和 2 年 1 月	・初詣（風浪宮） ・シアターデイ ・誕生会
令和元年 8 月	・夏祭り ・シアターデイ ・ショッピング・誕生会	令和 2 年 2 月	・節分 ・シアターデイ ・誕生会
令和元年 9 月	・敬老会 ・ものづくりデイ ・シアターデイ ・ショッピング・誕生会	令和 2 年 3 月	・ひなまつり

平成 31 年度 ケアハウス ふれあい荘

事業報告書

1. 概要

入居者の高齢化に伴い、要介護状態の認定を受ける入居者は増加傾向にあります。要支援・要介護状態になっても、外部サービスや特定施設入居者生活介護サービスなどを利用しながら、ケアハウスでの生活を継続できるよう支援してきました。

31 年度は、7 名の退居（特養や他施設への入所、入院、死去）それに伴い新規 6 名の入居がありました。

退居後は、次の入居へ繋げる事ができましたが、目標の 30 名に達する事はできず、前年度に比べ入居率が低下しました。

また、職員不足のため業務の見直しや改善を行う事で、職員の負担軽減を図ることができましたが、今後も職員の確保や業務体制について、見直して行く必要があると思われます。

レクリエーションや行事では、定期的に健康体操や運動を取り入れ、健康促進や体力の維持に繋げる事ができ、脳トレ（計算、漢字、ナンプレ等）や手芸を行う事で入居者の参加人数も増え、入居者より「毎回楽しみにしている」との声も聞かれました。

2. 元年度の利用状況と実績

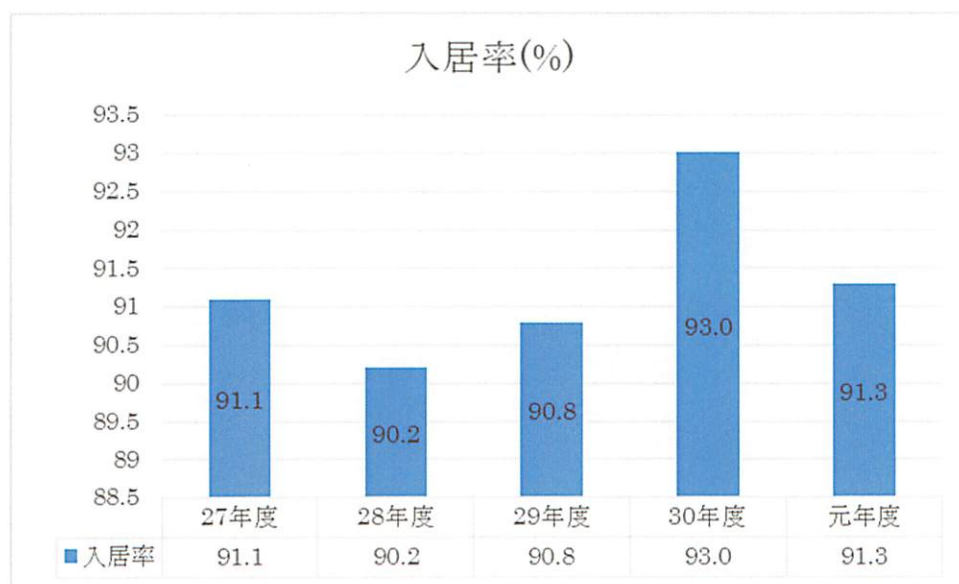
・令和元年度 年間入居率 = 91.3%

一般・・・181 名(平均 15 名) 特定・・・148 名(平均 12 名) 合計・・・329 名(平均 27.4 名)

27 年度・・・(27.3 名) 28 年度・・・(27 名) 29 年度・・・(27.2 名) 30 年度・・・(28 名)

※年間入居率は、入居者が満員になった状態が 1 年間続いた時の人数（30 名×12 か月＝360 名）を 100%とします。

入居者平均年齢 平均年齢 85.7 歳（女性 86.歳 男性 85.57 歳）



・昨年度（336 名）と比較し若干、入居者数が減少し達成率も低下しました。

申し込み、入居申し込み状況 (15 件)

月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月	1 月～3 月
人数	3 名	0 名	3 名	9 名

前年度（8 件）に比べ約 2 倍の入居申し込みがありました。問い合わせに関しても増加傾向にあります。（居宅事業者、病院からの紹介が殆どでした）

3. 事業実施計画に対しての具体的な評価

① 入居者の安心・安全な生活の支援及び職員との交流

- ・安全に入浴して頂けるよう、浴室内に滑り止めマットやクイックバーを使用し事故防止に努めました。
- ・日常生活の中で気軽に会話できる雰囲気作り、行事やレクリエーションを通して、入居者同士や職員との交流が図れるよう努めました。その結果、健康体操やレクリエーションに普段参加されていなかった方の参加もあり、脳トレや手芸を楽しみにされてある方も増えました。
- ・処遇面に対しては、入居者への言葉使いや対応について指摘があり、各部署（ヘルプ、支援室、ケアハウス）合同で接遇研修を実施し職員の質の向上に努めました。

② 入居者 30 名の確保とケアプランの見直し、他職種連携について

- ・入居者獲得の対応として、ホームページや病院への訪問、空き情報の（FAX 等）お知らせ、民生委員へのパンフレット配布を行いました。30 名の確保に至りませんでした。原因としては二人部屋入居のタイミング（空室なし）入居希望者の都合やコロナウイルスの影響が考えられます。入居申し込みや入居問合せの件数は増加しました。
- ・特定者のプランにつきましては、本人、家族の要望を取り入れ、その人らしく生活ができるよう支援致しました。
- ・他職種連携では、居宅事業者や病院、施設の関係者との情報共有や連携を図る事により、入退居、入退院、介護サービスの提供がスムーズに行なえました。

4. 収支状況

収入	元年度目標数	元年度実績	達成率
利用者延べ人数	360 名	329 名	91.3%
総収入	63.151.000	62.661.185	99.2%

支出	予算額	実績額	執行率	人件費比率	職員増減数
事業費支出	11.857.000 円	11.415.795 円	96.28%	44,945.937 円	増 1 名
事務費支出	3.704.000 円	4.791.196 円	129.35%	72%	減 2 名

- ・予算に対して実績の大幅な支出がありました。（居室洗面台、自動ドア修理、自動火災報知機取替え工事、ケアハウス空調機修理）
- ・職員不足のため、他部署（支援室、ヘルプ）より兼務して頂き、日勤帯と夜勤帯の職員の確保が出来ましたが、特定利用者の介護度の重度化により職員の負担が増している状況です。

現在の職員数・・常勤 7 名（相談員 1 名、看護師 1 名、介護員 5 名）

兼務 1 名（ヘルプ） パート 1 名（掃除のみ） 4 時間

5.運営

1-1・・日常生活相談

- ・ ケアハウスで生活するうえでの生活全般に関する事や一般者の入浴順番に関しての相談でした。（相談件数…2 件）
- ・ マッサージ機を独占される事やテレビの音量が大きい（不快に感じる音量）との苦情でした。対応としては、マッサージ機に関しては、貼り紙を貼り、音量に対しては随時、声掛けして対応しました。（苦情件数…2 件）

1-2・・事故報告

（事故件数…75 件）

- ・ 入居者の高齢化に伴う、身体機能低下による事故が発生しております。
- ・ 居室内での転倒事故が多く（特定の方々）ポータブルトイレや車イスへの移乗時による事故が多発しました。
- ・ コールを事前に押す事で事故を防げた事例もあると思われます。

（事故内容）

- ・ 転倒 69 件（打撲 19 件、創傷 3 件、骨折 1 件）
- ・ 外傷 3 件 ・火傷 1 件 ・ずり落ち 1 件 ・打撲 1 件

（対策について）

- ・ 3 カ月に 1 度、事故報告検討会やその都度事故があれば、検討会を開催し個別ごとに事故への対策・対応・リスクの早期発見が出来るようにしました。主な対応としては、行動に不安がある場合にはコールを事前に押してもらうよう説明、コールが押しやすい場所への設置、その他、移動時には手すりやシルバーカーの使用、日頃の声かけ、見守り、付添いを行い居室内の環境整備、を行い事故防止に取り組みました。

一般入居者…14 件

月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月	1 月～3 月
事故件数	0 件	5 件	4 件	5 件

特定入居者…61 件

月	4 月～6 月	7 月～9 月	10 月～12 月	1 月～3 月
事故件数	14 件	23 件	10 件	14 件

1-3・・職員の資質向上

職員の知識や介護技術の向上を図るため、以下の研修に参加致しました。

- ・ 高齢者虐待防止研修
- ・ 身体拘束（内部研修 年 4 回） ・感染症（内部研修、年に 4 回）
- ・ 接遇（ヘルプ、支援室、ケア内部合同研修 年 2 回）

- ・ リスクマネジメント（内部研修 年2回）

1-4・・行事について

- 5月 ふれあいの集い（バスハイク）
七木地蔵、川上峡こいのぼり
 - 6月 ふれあいの集い（おやつ作り）
 - 7月 セタ祭（ところてん）・納涼祭（合同）
 - 8月 ふれあいの集い（ミニ夏祭り）
 - 9月 敬老会（合同）・入居者健診
 - 10月 ふれあいの集い（ミニ運動会）
 - 11月 お茶会・ふれあいの集い（焼き芋会）
 - 12月 クリスマス忘年会・餅つき
 - 1月 初詣・ほっけんぎょう（合同）ゲーム大会（双六）
 - 2月 節分
- その他行事・・誕生会、散髪、移動販売、ショッピング、足腰お元気教室、慰問
健康体操、

<新型コロナウイルス感染対策について>

- ・ 今年新型コロナウイルスの流行に伴い、2月末から施設全体で感染対策が取られました。
ケアハウスでは、入居者の外部との接触を避けるために、面会の禁止、デイサービス利用の中止、
定期受診は職員が薬を取りに行く、ショッピングの代行、外出の自粛（散歩は可能）、受診時のマスク
着用、毎日の検温（職員、入居者、11月から続行）また、内部感染防止のために、手洗い、うがいの
励行、ソーシャルディスタンスの説明と実行を行い、食事は、二班に分け、四人掛けのテーブルに二
人までとし、対面にならないように座って頂きました。入居者のストレス面に考慮し社会的距離を保
ちながら体操やボール運動等を実施しました。その他、定期的な会議や感染症予防の対策、研修を実
施しコロナウイルス対策に取り組んでいます。

平成 31 年度 特定施設入居者生活介護 事業報告書

1. 概要

令和元年度も「明るく、楽しく、安心・安全に過ごしましょう」といったテーマを掲げ、職員一同業務に取り組んで参りました。結果、大きな事故などもなく、入居者は安心してケアハウスでの生活を送られています。特定入居者の介護度が重度化し、介護負担が増加しているにも関わらず、職員不足といった状況が慢性化しています。業務の見直し、改善を行う事により、職員の負担軽減を図るよう努めました。

2. 元年度の利用状況と実績

収支報告 (介護保険事業収入)

	予算	実績	達成率
30 年度	23.053.000	26.293.585	104%
元年度	23.223.000	20.112.732	87%

・前年度（30 年）と比較すると介護報酬の低下が見られました。原因としては、長期入院や他施設への入居（その方にあった施設）により特定者が減少した事と思われます。

特定利用者の介護度、延べ人数 (30 年・元年度比較)

介護度	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	合計 (名)
30 年度	33	12	37	45	13	12	152
元年度	31	17	19	58	17	6	148

2-1 ・ 特定施設入居者生活介護利用状況

入浴・排泄等の身体介護では、ケアプランに基づく個別対応・計画・評価により適切なサービスの提供が行えるよう取り組んで参りました。また、入居者が高齢になっても安心・安全に生活できるよう、看護師を中心に心身状態の把握を行い、職員間の情報共有及び家族、関係機関との連携を行い適切な支援に繋げて行きました。

2-2 ・ 環境整備

入居者の高齢による下肢筋力（体力）低下により、居室での転倒が増加傾向にありました。そのため、希望される方には携帯用呼び出しボタンを携帯して頂き、安心して生活ができる環境を提供しました。また、施設の老朽化に伴い居室の換気扇、エアコン（4 台）交換、洗面台取替え（2 台）工事を行いました。また浴室には滑り止めマット、クイックバーを使用し事

故防止に努めました。食堂テーブル、イスを購入し家庭的な雰囲気の中で食事ができるよう工夫し入居者が過ごしやすい環境を整えました。

2-3・・特定施設介護サービス計画

- ・介護計画の作成については、入居者の生活状況、身体機能、精神面から評価を行い、入居者家族の意見を含め、担当者会議を開催しました。
- ・介護サービス計画については、身体状況・精神状況の急変時、または介護保険の更新時期に見直しを行いました。

<今後の課題>

- ① 入居者の安全・安心な生活の支援、及び不利のない入居者への対応
 - ・悩みや訴えを気軽に相談できる関係性を築き日常的な会話や傾聴を行う事により信頼関係を深めて行く。
 - ・職員の質・サービスの向上を図るための研修の実施。
 - ・環境整備を行い事故防止に努める。
 - ・入居者にとっての適切な支援、有意義な生活環境、職員間の協力。
- ② 多彩なレクリエーションの実施、継続
 - ・多くの人に参加できる行事、入居者同士が楽しめる、娯楽用品の設置、集える環境作りを提供、継続。
- ③ 他職種連携のとれた体制作り
 - ・他職種との連携を図り、本人にとってより良いサービスの提供、支援、実施を行うと共に入居者がスムーズにサービスが受けられる体制作り。
- ④ 入居者獲得と業務の効率化・負担軽減
 - ・業務の効率化、負担軽減を行うために、安定した職員の確保、入居者の役割や出来る所を増やし軽減を図る。

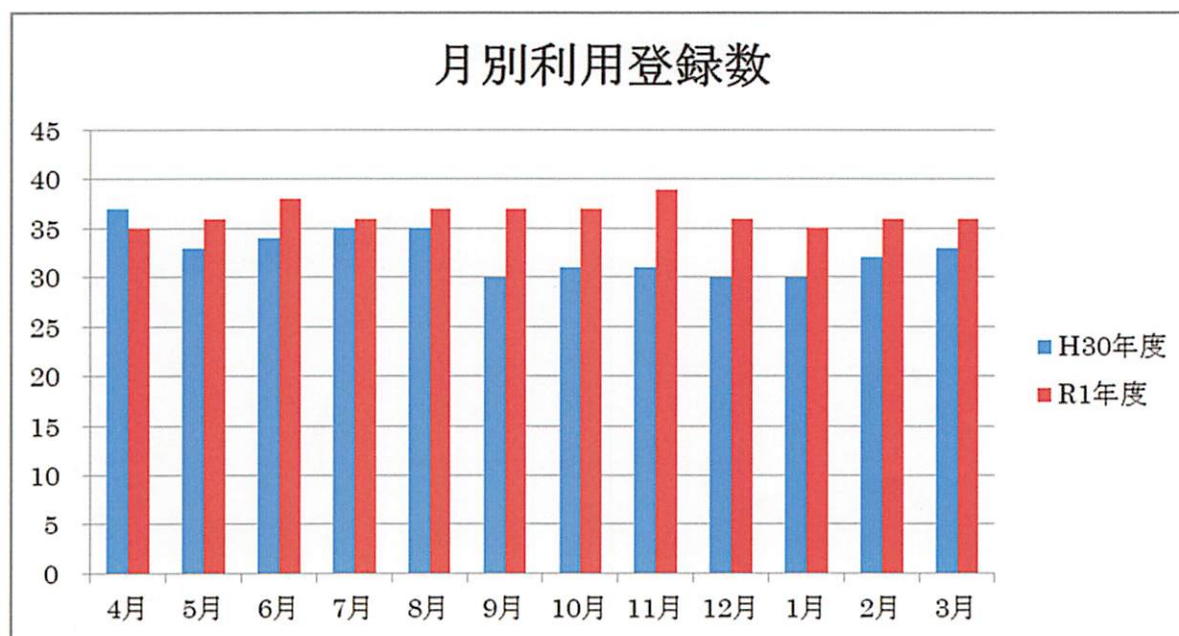
平成 31 年度事業報告 ふれあいの園ホームヘルプ事業

介護保険において、介護が必要となられた利用者に対し、可能な限りその居宅において、有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことが出来るよう、居宅サービス支援計画をもとに訪問介護計画を作成し、身体介護、生活援助、総合事業のサービスを提供致しました。

①令和元年度の利用状況と実績

今年度は空き状況を居宅支援事業所へ配布等行った結果利用登録数は昨年度より月平均で 4 名増となりました。

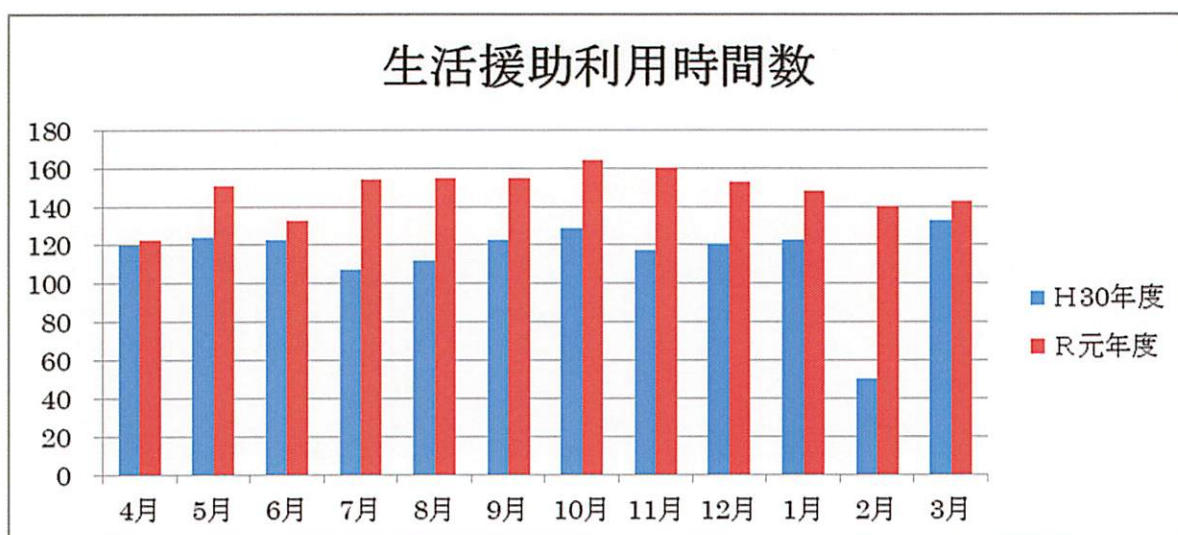
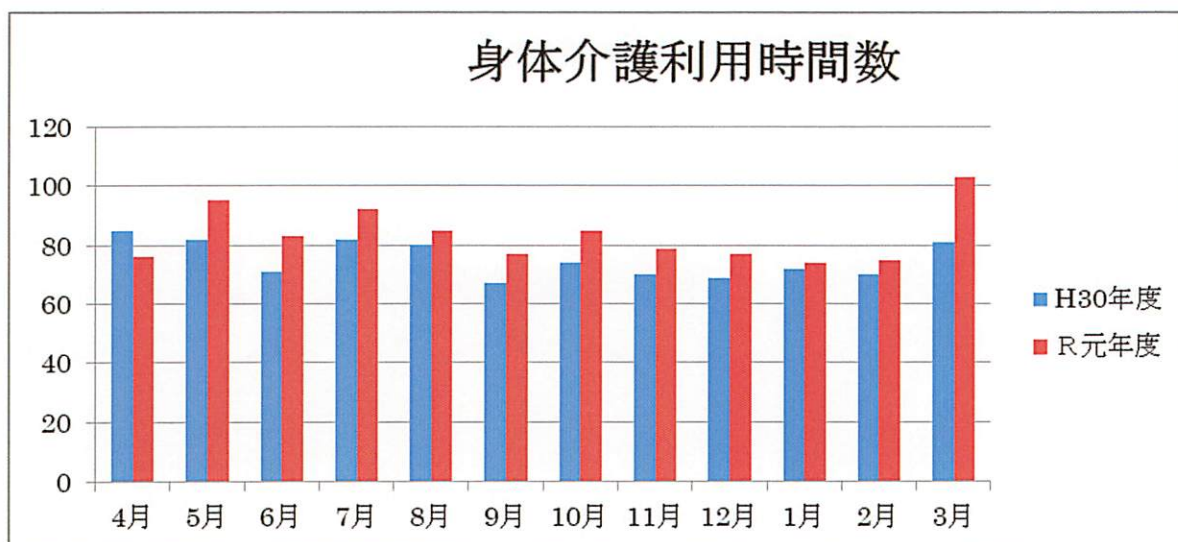
要介護者につきましては、令和元年度 14 名の新規利用がありました。



②事業実施計画に対しての評価

① 認知症や身体介護が必要な方などに対する介護能力の向上を図る

認知症ケアについての事例検討や個別の対応について定期的に会議を行い、介護能力向上を図った結果、身体介護につきましては、令和元年度は月平均で 83 時間、前年度と比較すると身体介護対応時間を 8 時間増加する事が出来ました。
生活援助につきましても 33 時間増加する事ができました。

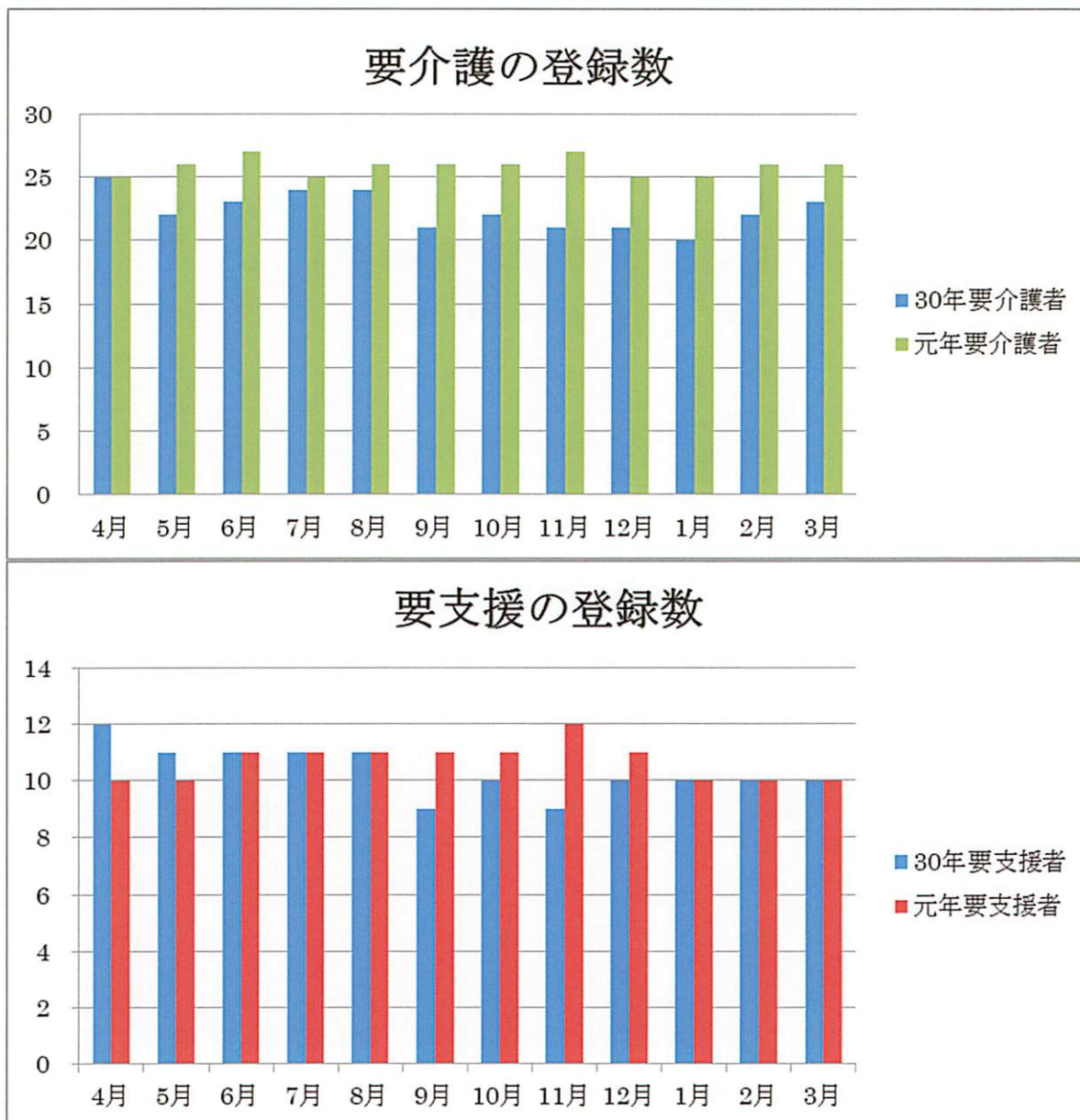


活動地域内での利用者（要介護者）を増やす。

②－１

空き状況を系列居宅支援事業所などの関係機関に配布を行い利用者数維持を目指す。

令和元年度は 18 名の新規利用登録がありました。（系列居宅より要介護者 8 名、他居宅より要介護者 6 名・要支援者 4 名でした。）

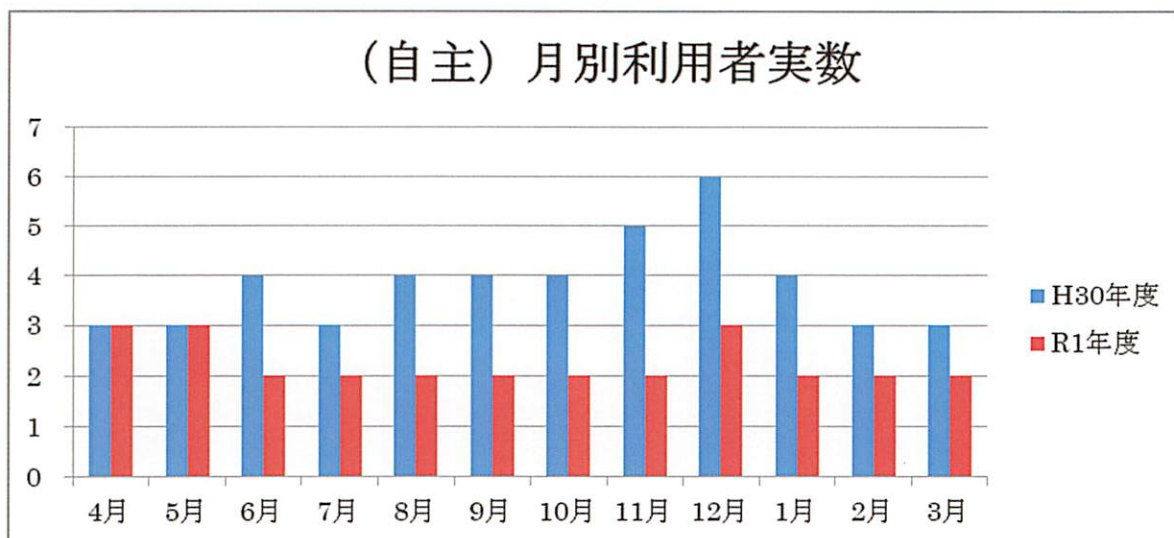


② - 2

介護保険では対応出来ないニーズに対して自主事業訪問介護を提供し利用者の満足度を向上させる。

令和1年度の利用者は月平均で2.3名でした。内容は介護保険では適用されない同居家族世帯の掃除が主でした。

令和1年度は、定期の利用者が増えず昨年度より減少となりました。

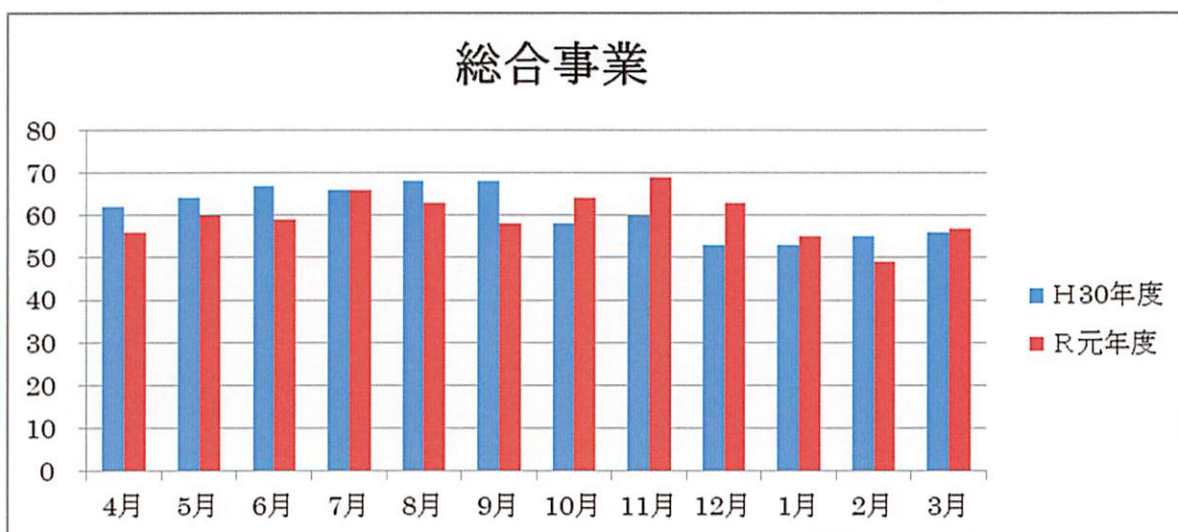


③事業の効率化を図る。

③－1

訪問介護員の資格が必要のない総合事業の生活ヘルプについては新規利用の受け入れは行わない。

総合事業での新規利用の依頼はありましたが、元気ヘルプが主で生活ヘルプに関しては依頼はありませんでした。



③－2

自立支援・重度化防止に重点を置き、事業の効率化と増収を目指す観点から、要介護者に重点を置いた利用者の受け入れを図っていく。

令和1年度は14名の新規利用登録（要介護）がありましたが、4名が自立支援的見守り援助を行う家事支援の内容（身体・生活）で5名が生活援助・3名が身体介護（入浴支援）の内容でした。

③ 令和元年度事業計画に対する数値目標達成率

年間収入目標 1,011 万円に対し年収入 1,145 万円で達成率 113.3%でした。

年間支出予算 79.2 万に対し年間支出 73.8 万円で 0.7%減でした。

人件費では、職員の増減はありませんでした。人件費の内訳は常勤・パート（3 名）で 77.1%、登録ヘルパー（3 名）で 22.9%でした。

<収 入>

科 目	元年度目標数	元年度実績	達成率
利用者のべ人数	450 人	438 人	97.3%
介護保険事業収入	10,113,000	11,457,082	113.3%

<支 出>

科 目	予算額	実績額	執行率	人件費	人件費率 内訳	職員増減数
事業費支出	332,000	251,917	75.9%	10,994,615	常勤パート 73.4%	増 0 名
事務費支出	460,000	486,580	105.8%	97%	登録ヘルパー 22.6%	減 0 名

(総括)

今後も、「自立生活支援のための見守りの援助」を明確にする事で身体介護利用に繋げたいと思います。また、現行サービス内容を引き続き維持出来るように介護能力向上の為の研修を行っていきます。

現在 7 名で事業を行っているうえに常勤ヘルパー 1 名はケアハウスの夜勤も兼務している状況で、供給できる人数に限りがある為、今後は、より介護を必要とされる方にサービス提供が出来るようにしていきたいと思います。

常勤・パートの稼働率を上げるため、訪問時間が変更可能な利用者には、変更を承諾して頂く事で効率良く訪問が出来るようにしてできる限り常勤・パートの訪問回数を増やし、登録ヘルパーの稼働率を抑えることで、人件費率の悪化を改善したいと思います。

今後も、同一法人以外の居宅介護支援事業者に対し、営業活動を強化する必要があり、サービス提供の空き情報などを定期的に情報発信するとともに、地域包括ケア会議等に参加し当事業所の広報活動を行う事で他業種との連携を図り新規利用者の獲得に努めたいと思います。

平成 31 年（令和元年）度

在宅支援室事業報告書

在宅支援室は、校区サロンや老人会、委嘱学級等の地域出前講座を中心に活動し、参加者及びボランティア、校区コミュニティ等の抱える課題の抽出や個々の相談対応を行って参りました。前年度と比較し、各地域におけるサロン等の活動は徐々に広まりつつありますが、一方でボランティアの後継問題や活動の場所（小地域での開催）、活動内容、予算といった点においては、未だ検討課題として残されているように感じます。今後も地域との連携、高齢者の皆さま等の声を大切にしながら、在宅支援室の活動を継続していく必要があると感じました。

1、重点目標に対する実績及び評価

①地域（校区）の抱える課題及びニーズを抽出し、必要とされる地域（校区サロン、老人会等）の支援、新たな校区活動の推進と社会資源の構築

令和元年度における地域支援については、相談件数・訪問件数の減少が見られます。相談の多くは出前講座先での新規相談や以前より関わりのあるケースとなっております。これは、広報活動が十分でなかったこと、地域の相談窓口（包括支援センター、他事業所等）が増えたことも関係していると考えられます。地域の課題の抽出については、新たに青木校区地域づくり会議や班長会議、地域支え合いブロック交流研修会に参加することができ、地域の考えやそれに伴う課題、事業所に協力して欲しい内容等が再確認できてきたのではないかと思います。今後は、他の地域の状況も把握できるよう働きかけ、地域課題の解決に向けて情報整理、共有を行い、地域や関係機関との連携を深めていきたいと思っております。

〈活動実績件数〉

	平成 30 年度	令和元年度
訪問件数	61 件	32 件
相談件数（電話・来園）	57 件	39 件
代行申請	7 件	9 件
居宅移行	1 件	3 件
出前講座（ふれあいの園独自）	65 件	47 件

* コロナウイルスに伴うサロン等の休止により、出前講座の回数は昨年度より減少しております。

城島町出前講座

・城島町出前講座は、令和元年6月より介護予防普及啓発、福祉・介護等の早期相談対応につながることを目的とし、町内事業所・西地域包括支援センターと連携し、依頼があった地域へ出前講座を実施する取り組みです。講座の取りまとめは在宅支援室が担っており、依頼者及び事業所との調整、在宅支援室からの講師派遣等を行っております。

〈活動実績〉

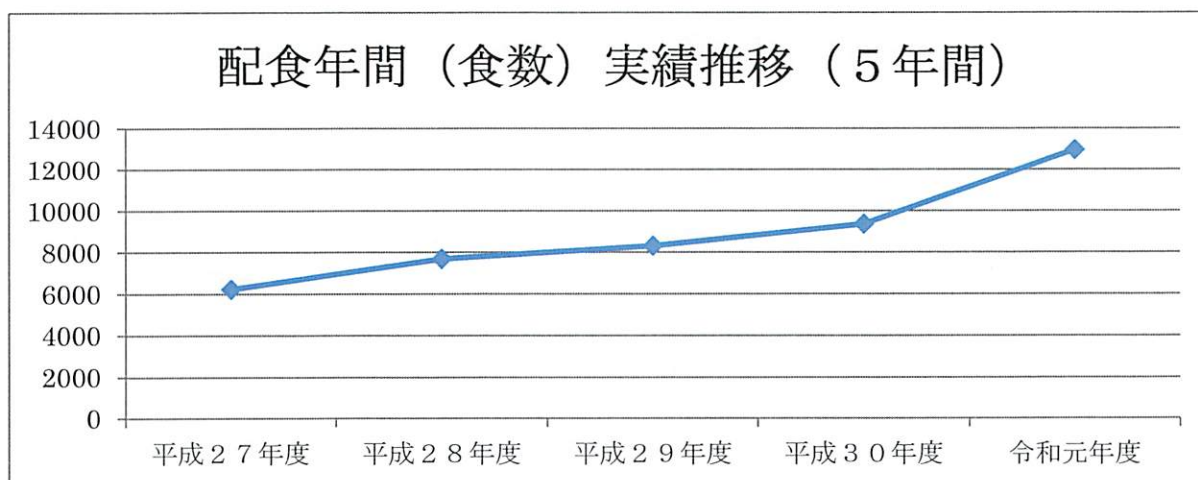
・青木校区 8件 城島校区 11件 江上校区 1件 合計20件

②充実した配食サービスの提供

配食サービスは、平成30年度と比較し、年間3,603食の増加が見られました。その要因としては、チラシによる広報、ご自宅では管理が難しい減塩食や低カロリー食への対応、現利用者からの紹介、行政や事業所からの相談の増加があげられます。また、ご利用者からは、「バランスがとれていて良い」「配達員さんの声かけがあるから安心できる」との声も聞かれています。しかし、その一方で「味が美味しくない」「色合いが良くない」等の意見も聞かれているため、今後も管理栄養士等と連携し、ご利用者のニーズを基に出来る限り創意工夫を行っていき改善していく必要があると考えます。

*過去5年間の配食サービス実績については下記の表の通りです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成27年度	509	495	444	468	480	523	533	540	586	572	538	536	6,224
平成28年度	444	613	544	657	649	622	677	638	741	727	629	742	7,683
平成29年度	721	777	793	678	720	730	686	679	650	618	556	694	8,302
平成30年度	630	672	650	743	786	797	766	798	863	793	922	942	9,362
令和元年度	927	970	1,108	1,176	1,093	1,112	1,193	1,150	1,166	991	1,031	1,048	12,965



*平成30年度合計は4,535,750円、令和元年度合計は6,204,600円（1,668,850円の増）

平成 31 年度ふれあいの園みづまケアプランサービス事業報告書

① 令和 1 年度の利用状況と実績 収支状況について

◎令和 1 年度の事業計画に置いては、介護支援専門員 3 名体制で業務を遂行しております。

平成 30 年度からの体制変更に伴い、介護支援専門員一人に対しての担当件数の見直しを行いました。利用者総数・目標収入に置いても目標数値に達しない状況となっています。

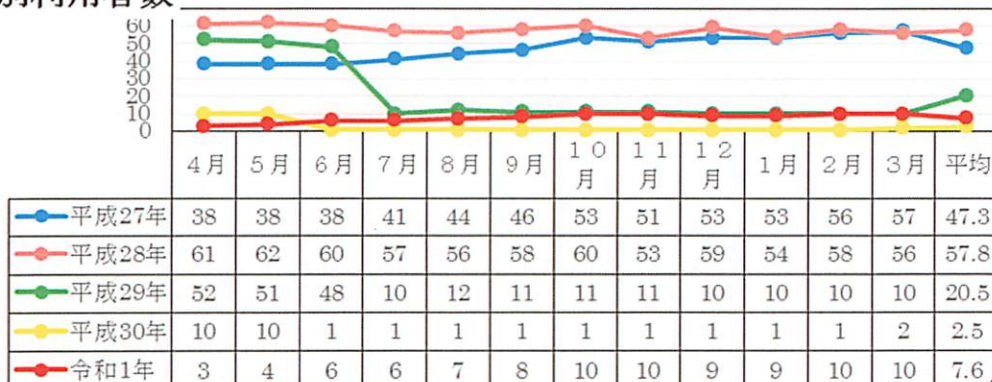
◎みづまケアプラン開設以来、地域包括支援センターからの相談が中心で、新規利用者を増やしてきた状況です。平成 30 年度には地域包括支援センターからの新規相談が一時的に減少しましたが、令和元年度には 11 件の受け入れに繋がりました。同法人や医療機関や利用者・家族からの紹介の相談の 22 件にも対応してきましたが、施設入所などの解約者数も 24 件と多く、利用者増には結び付かなかった状況です。

最近の傾向としては、要介護の認定から要支援の認定となられるケースも増えてきています。

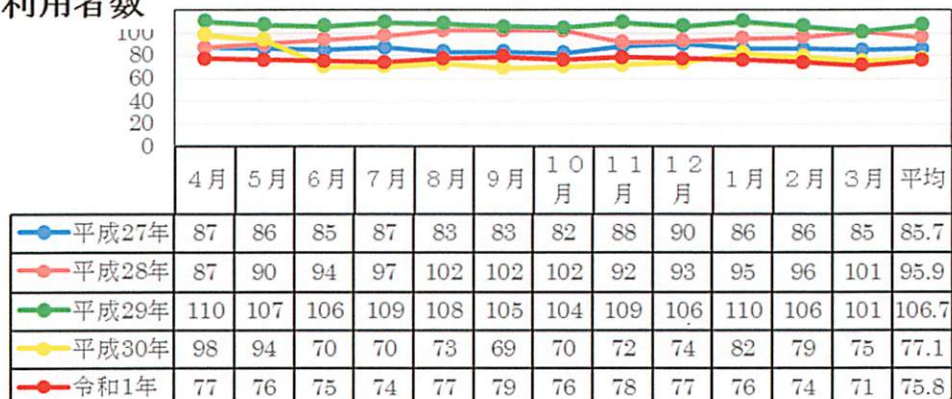
【数値目標に対する実績数】

	令和1年度(目標)		令和1年度実績		令和1年度達成率	
	介護	予防	介護	予防	介護	予防
利用者延べ人数	1020 人	96 人	910 人	92 人	89%	96%
介護支援専門員数	3 人		3 人※			
特定事業所加算(介護)	Ⅲ(3000 円)		Ⅲ(3000 円)			
利用者定員(月平均利用者数)	85 人	8 人	75 人	7 人	88%	88%
介護支援専門員一人に対しての担当件数※1	28 人	2.6/2 人	25 人	2.3/2 人		
介護支援専門員一人に対しての合計担当件数(月平均)※1	29.3 人		26.1 人		89%	
稼働率 (基準担当件数 35 名)	84%		75%		89%	
収入 ※2	14742060	374400	13374330	384380	90.7%	102.6%
総収入	15, 116, 460		13, 758, 710		91%	

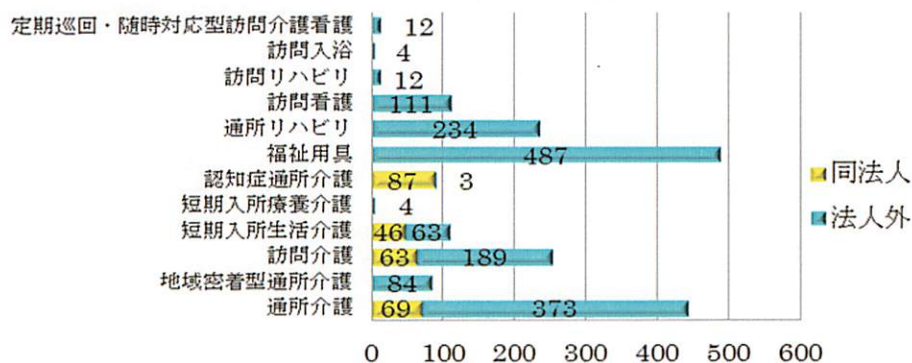
予防月別利用者数



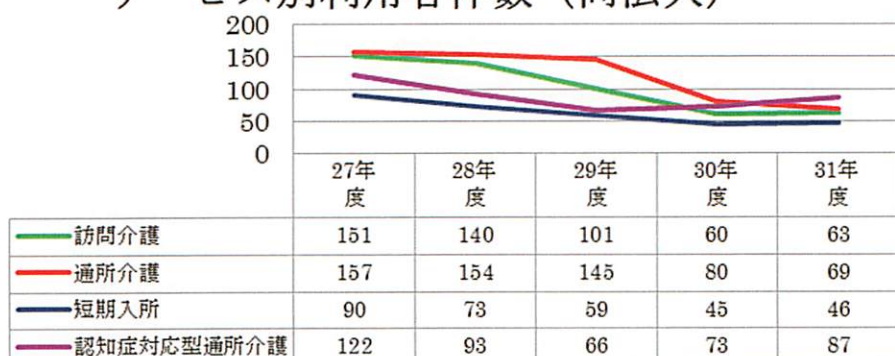
介護月別利用者数



サービス別利用者数



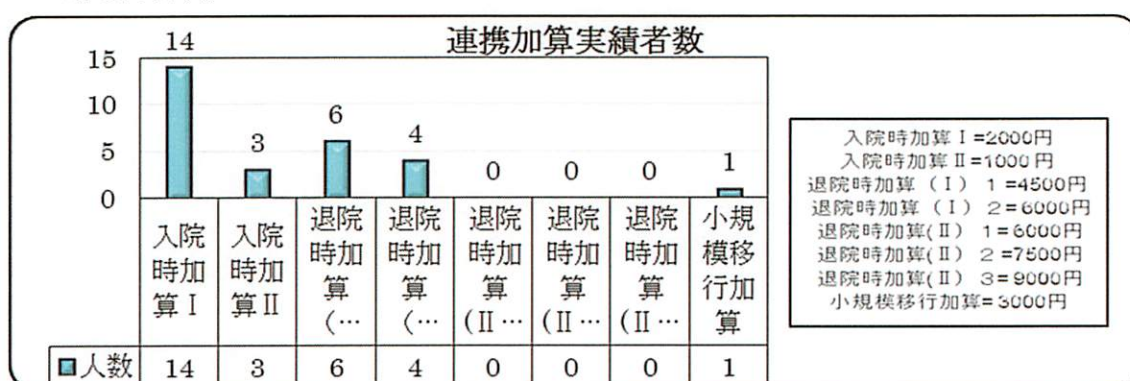
サービス別利用者件数（同法人）



サービス別利用者数等について

同一法人のサービス別利用者数等については、地域性的問題もあると考えられます。併設事業所である認知症対応型通所介護は近年の伸びがありますが、本部の訪問介護・短期入所の利用数は微増、通所介護に関しては若干の減少です。

◎平成 29・30 年度の介護支援専門数の減や異動もあり、それに伴い城島地区の一部の利用者を本部居宅に変更したことも、本部のサービスの利用者数減に至った一因と考えられます。



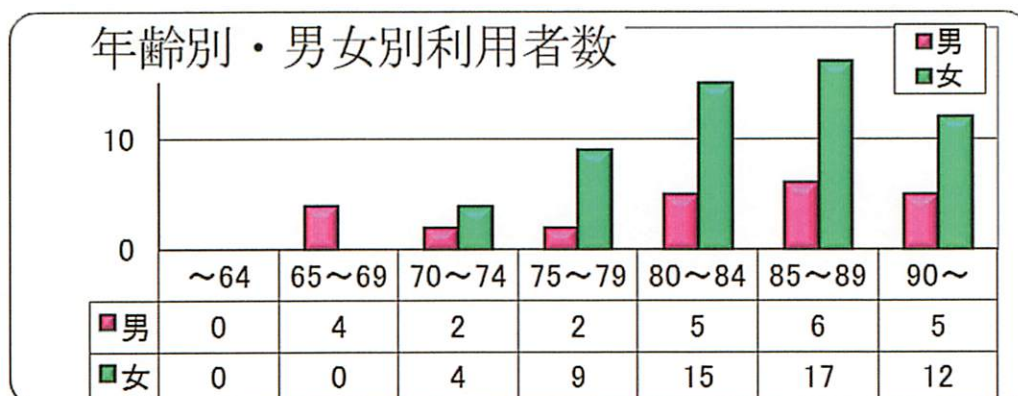
介護報酬及び加算算定について

医療機関との連携が問われており、利用者の入退院時には可能な限り連携を図るよう努力を実施し、今年度に置いては入退院の加算を 28 件算定しております。

※加算詳細

10 月以降・消費税増～

- ・ 要支援 1・2 = 月 3900 円 (3910 円)
- ・ 要介護 1・2 = 月 10420 円 (10530 円)
- ・ 要介護 3・4・5 = 月 13530 円 (13680 円)
- ・ 特定事業所加算 (Ⅲ) 要介護利用者 1 名につき、月／¥3000 円加算されます。
- ・ その他、初回加算、医療連携加算、入退院時加算等を、その都度算定しております。

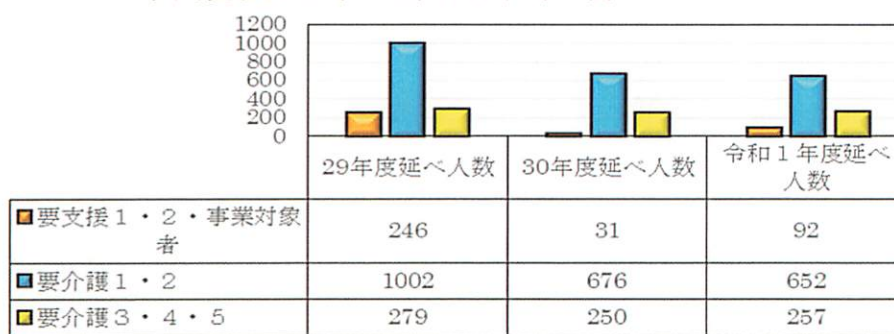


年齢・男女別利用者数について

◎令和 2 年 3 月利用者分 (81 名)

- ・ 最高年齢は 99 歳、最低年齢は 65 歳で幅広い年齢層の利用者に対応しています。
- ・ 利用者の大半は女性の状況です。

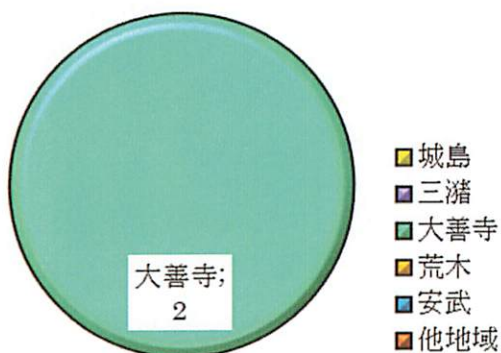
介護度別平均利用者割合



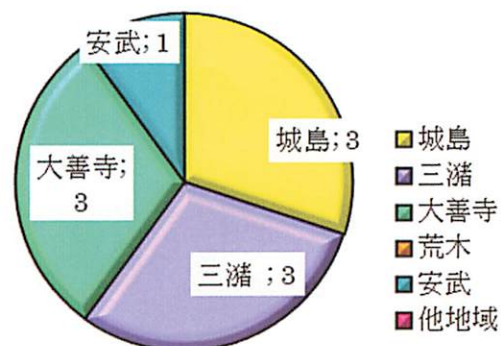
年度・介護度別の延べ月平均利用者人数について

- ・延べ利用者は、平成 30 年度と比べて横ばいの状況ですが、要介護から要支援となられる利用者が増えつつあります。
- ・要介護 1.2 の軽度の利用者と要介護 3・4・5 の重度の利用者に置いては割合的な変動は少ない状況です。

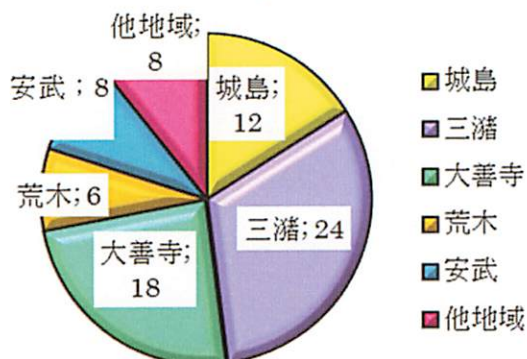
要支援平成31年3月



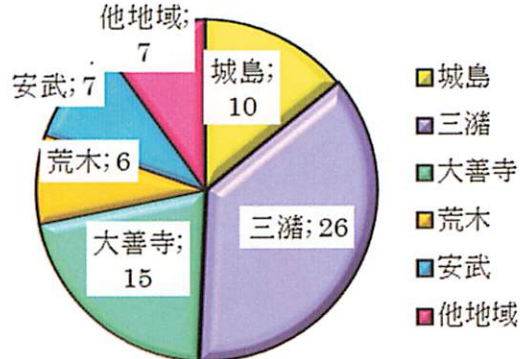
要支援令和2年3月



要介護平成31年3月



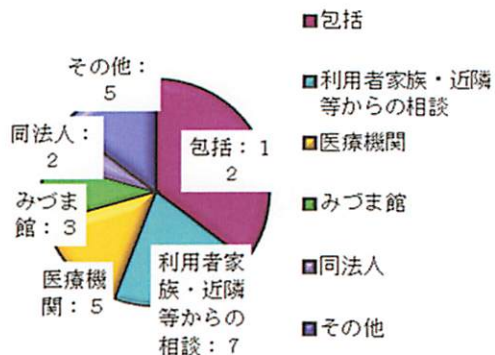
要介護令和2年3月



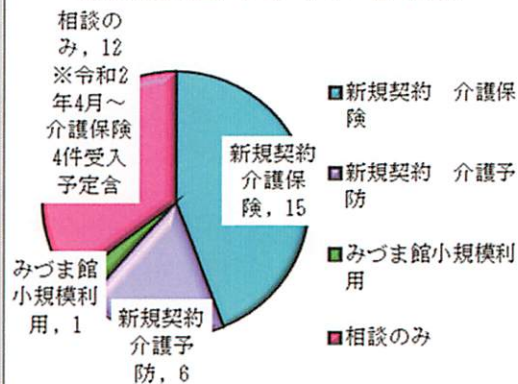
利用者の地域別分布について

- ・平成 30 年度と同様に、三湊と城島の利用者が約 5 割を占め、大善寺・荒木・安武の西圏域全体と大木町や佐賀方面の一部の利用分布に変化はありません。
- ・ふれあいの園ケアプランが城島に所在しており、みづまケアプランとしては、三湊・荒木・大善寺・安武地区の利用者の獲得が今後も課題であると考えます。

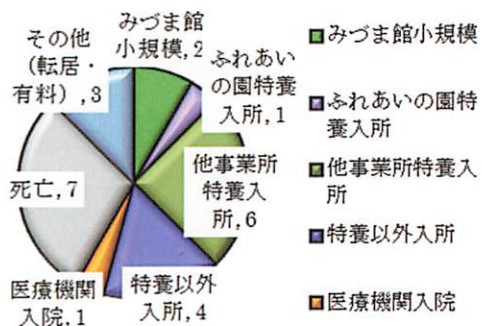
新規相談件数



新規受け入れ状況



解約状況



新規相談経路について

同一法人や病院からの紹介など、その都度新規相談の受け入れを行っていた状況です。地域包括支援センターからの相談に置いては、今年度は徐々に増えて 11 件の利用に繋がりました。

② 事業実施計画に対しての評価

三瀨周辺の地域の中に浸透していきたいとの計画に対して、随時新規の相談に対応できるように活動を継続しております。利用者のご家族や民生委員・病院・地域包括支援センター等の関係機関等にパンフレットを配布する等の広報活動は継続して実施してきており、効果も徐々に感じています。

地域に根差す事業所を目標に、信頼される事業所作り・継続した広報活動等を今後も継続していく必要があると考えます

今年度は、面接技術等の資質の向上を図るために、内部研修の他に外部講師を招いての研修も定期的に参加・実施しました。

今後も、研修等の継続で業務順応を適切に行い、また外部講師による研修計画により、介護支援専門員としてのモチベーションやサービスの質の向上に繋げていきたいと思っております。

- ・ 内部研修 （全員）

毎週の事業所内でのケース検討等

- ・ 外部研修等

集団指導	1 名
ケアマネよらん会（西圏域）	1~2 名
主任ケアマネかたろう会（西圏域）	1~2 名
久留米市介護サービスケアプラン指導研修	1 名
課題整理総括表活用研修	1 名
アローチャート研修（外部講師による研修）	3 名

③ 今後の課題について

事業所の運営を安定させるためには、周知活動や研修の継続が必要と考えます。合わせて介護支援専門員の事務処理業務に関する負担軽減を図り、業務効率化にも意識した取り組みも検討していく必要性を感じています。介護支援専門員の負担軽減と業務の効率化を考えると、IT 機器についての活用についての検討も必要だと思います。

※事業所が抱える利用者数は横ばいの状況で、人件費率も悪化傾向にあり、将来的には本部との事業所の統合等も視野に入れてメリット・デメリット面についての介護保険の動向の確認を行っていきます。

また、地域包括支援センターからの介護予防の利用者の業務委託を増やしていきながら、稼働率を高めると共に、三潞の周辺地域に浸透して地域での貢献度を高めていきたいと考えます。

支出	予算額	実績額	執行率	人件費
事業費支出	494.000 円	452.997 円	91.7%	14. 736.738 円
事務費支出	766.000 円	658.337 円	85.9%	107.8%

平成 31 年度 ふれあいの園みづま館小規模多機能型居宅介護事業報告

1 利用状況と実績について

令和元年度は、新規利用者 3 名・登録解約者 10 名でした。総登録者は、28 名で、延べ利用者数平均は 20 名でした。平成 27 年度から令和元年度までの新規・再登録者数と解約数を見てみると、新規・再登録者が 5 年間の平均 15.6 名で解約者が 5 年間の平均 15.4 名でした。令和元年度では、新規・再登録者 8 名で解約者が 10 名と、解約者が若干多く、新規利用者は 3 名と登録者の変動は少ない年でした。

令和元年度の収入目標達成率に関しては、収入見込額が 5549 万に対して収入達成率は 101.36%と目標達成した状況にあります。

事業費・事務費に関しては、予算の執行率は、想定内でありました。人件費率は、80%となっております。

平成 27 年度から令和元年度までの新規、再登録者・解約者・登録人数

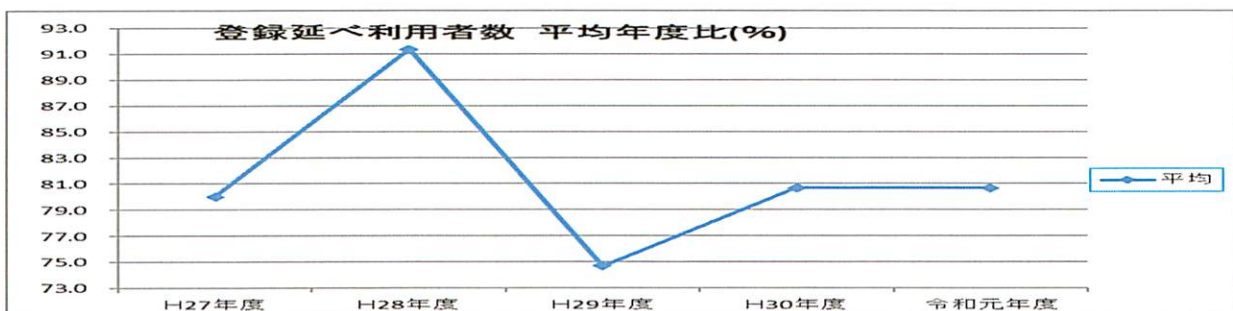
	H27年度			H28年度			H29年度			H30年度			令和元年度		
	新規・再登録者	解約	登録者	新規・再登録者	解約	登録者	新規・再登録者	解約	登録者	新規・再登録者	解約	登録者	新規・再登録者	解約	登録者
4月	0	3	18	3	2	23	2	2	20	0	0	16	0	1	20
5月	2	1	17	0	2	21	1	1	20	3	0	19	2	1	21
6月	0	0	16	3	1	23	0	1	19	2	1	21	1	0	21
7月	3	2	19	1	3	21	0	0	19	1	2	21	0	0	21
8月	2	1	19	2	1	22	0	0	19	1	2	20	0	0	21
9月	2	0	21	2	1	23	2	1	20	2	1	21	1	1	22
10月	1	2	21	0	1	22	0	1	19	0	1	20	0	0	21
11月	3	2	21	2	1	23	1	2	18	1	1	19	1	2	22
12月	1	1	21	1	3	21	0	1	17	2	1	20	0	1	19
1月	0	1	20	3	5	19	1	3	17	2	1	21	0	2	18
2月	2	1	21	4	2	21	1	1	15	1	1	21	2	1	18
3月	2	0	22	2	3	20	5	2	19	2	1	22	0	2	16
合計・平均	18	14	19.7	23	25	21.6	13	15	18.5	17	12	20.1	7	11	20.0

① 登録延べ利用者数

②登録延べ利用者数 年度比(%)

	登録延べ利用者数						登録延べ利用者数 年度比(%) 25人を100%とする				
	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	令和元年度
4月	18	23	21	16	20	4月	72	92	84	64	80
5月	17	23	20	19	21	5月	68	92	80	76	84
6月	16	23	19	21	22	6月	64	92	76	84	88
7月	19	23	19	21	21	7月	76	92	76	84	84
8月	19	23	19	20	21	8月	76	92	76	80	84
9月	20	24	20	21	22	9月	80	96	80	84	88
10月	21	23	19	20	21	10月	84	92	76	80	84
11月	24	24	18	19	22	11月	96	96	72	76	88
12月	22	23	17	20	19	12月	88	92	68	80	76
1月	20	23	17	22	18	1月	80	92	68	88	72
2月	21	21	15	21	18	2月	84	84	60	84	72
3月	23	21	20	22	17	3月	92	84	80	88	68
平均	20.0	22.8	18.7	20.2	20.2	平均	80.0	91.3	74.7	80.7	80.7

② -1 登録延べ利用者数 年度比(%) 25人を100%とする



③ 収支・人件費率

収入	令和元年度目標数	令和元年度実績	達成率		
登録利用者数(25人)	22	20	90.91%		
総収入	55,490,000	56,246,079	101.36%		
支出	予算額	実績額	執行率	人件費率	職員増減数
事業費支出	5,996,000	4,885,467	81.48%	45,262,520	増 1.25名
事務費支出	2,351,000	2,204,963	93.79%	80%	減 1名

令和元年度の登録者の平均要介護度は、2.43 でした。

平成 29 年度の登録者の平均要介護度は、2.53・平成 30 年度の登録者の平均要介護度は、2. 29 であり令和元年度は要介護度が上がっている状況にあります。

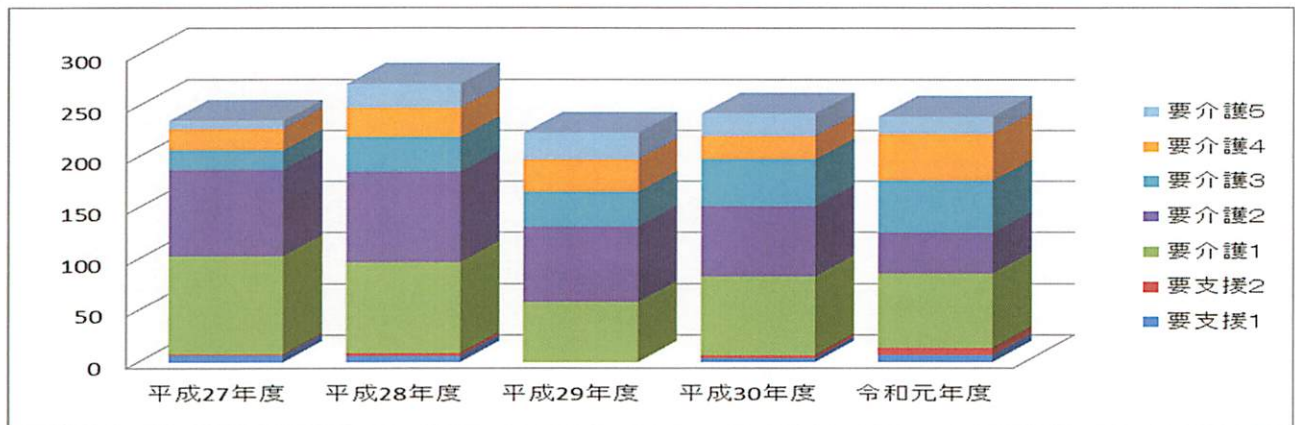
平成 27 年度から令和元年度までの要介護度別合計を見てみると、要支援の方は全体の 3.1%、要介護 1・2 の方は、全体の 61.4%、要介護 3・4・5 の方は、全体の 35.5% でした。平成 30 年度からすると要介護 1・2 の方の人数は若干減り、要介護 3・4・5 の方は増えた状況にあります。

登録利用者数は減った状況でしたが、小規模多機能は包括払いの為に、要介護度が上がり登録数が上がると良い状況になります。令和元年度は、要介護 1・2 の方は人数が減少しましたが、要介護 3・4・5 の方が増加したので、総収入の目標達成率は 101.36%と、平成 30 年度より収入は上がっている状況です。

④令和元年度 登録者の要介護度別人員(平均要介護度は、「要支援1・要支援2は0. 375で計算行う」)													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	7
要支援2	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	7
要介護1	6	6	6	6	5	5	4	7	7	7	7	6	72
要介護2	5	6	5	4	4	4	4	4	1	1	1	1	40
要介護3	4	4	3	3	4	4	4	4	5	5	6	5	51
要介護4	1	1	3	4	4	5	5	5	5	5	4	4	46
要介護5	2	2	2	2	2	2	2	2	1	0	0	0	17
計	20	21	21	21	21	22	21	22	19	18	18	16	240
月平均要介護度	2.14	2.13	2.27	2.37	2.46	2.53	2.61	2.59	2.58	2.44	2.39	2.44	2.43

⑤介護度別利用者数(登録者合計)

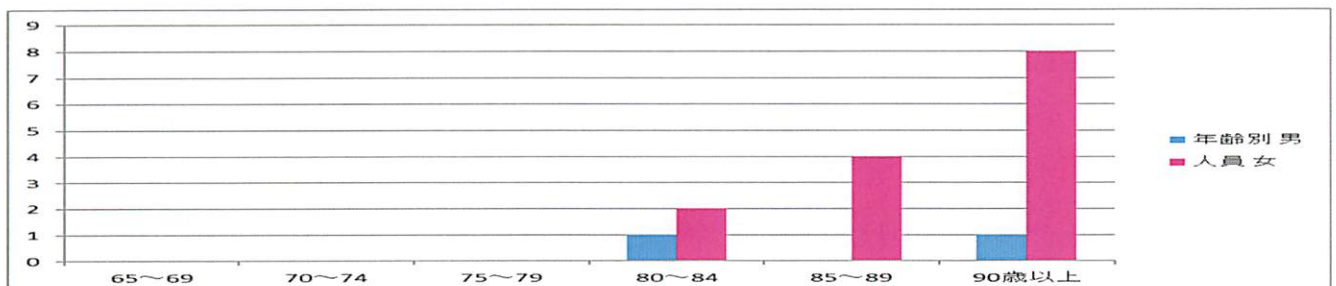
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要支援合計	要介護1・2合計	要介護3・4・5合計
平成27年度	7	1	95	85	19	21	8	8	180	48
平成28年度	6	3	88	89	34	29	23	9	177	86
平成29年度	0	0	58	74	34	32	26	0	132	92
平成30年度	4	3	76	69	46	23	22	7	145	91
令和元年度	7	7	72	40	51	46	17	14	112	114



令和2年3月現在の登録者の平均年齢は、89.3歳でした。

平成31年3月が87.9歳でしたので、令和元年度が高齢の方が多かったです。また、85歳以上の方が56.3%の割合でした。

⑥年齢別状況		令和2年3月現在								
年齢別		65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	計	平均	最高齢
人員	男	0	0	0	1	0	1	2	88.5	95
	女	0	0	0	2	4	8	14	89.4	98
	計	0	0	0	3	4	9	16	89.3	



令和元年度の加算状況についてですが、サービス提供体制加算・総合マネジメント体制加算は、登録者全員にかかる加算です。看護職員配置加算については、要支援者以外にかかる加算で、認知症加算【1】

【2】は利用者の状態による加算となります。登録者を増やすことで、認知症加算以外については、取れることとなりますので、要介護度が高い方と登録者の数を多くする必要があると考えております。

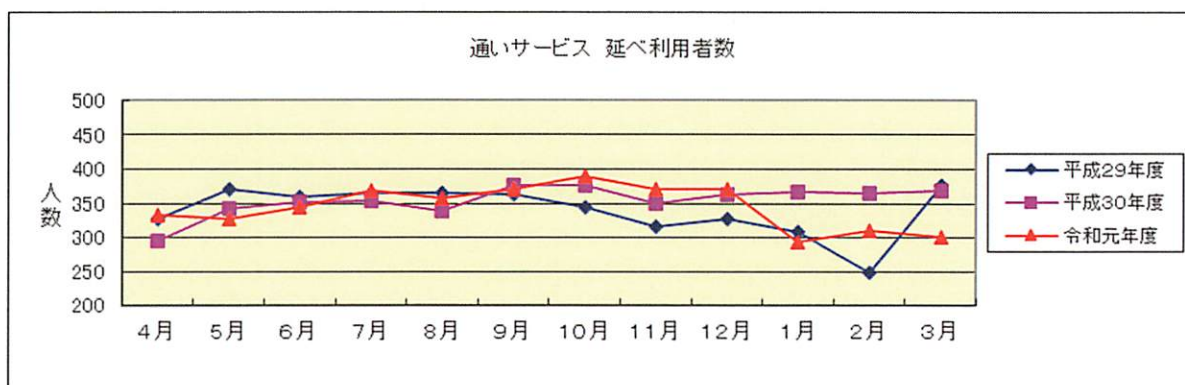
また、看取り連携体制加算がありますが、昨年度は、1人の看取りを行いました。

⑦令和元年度 加算状況													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
看護職員配置加算	18	19	19	19	19	20	19	22	19	18	18	16	226
サービス提供体制強化加算	20	21	21	21	21	22	21	22	19	18	18	16	240
総合マネジメント体制強化加算	20	21	21	21	21	22	21	22	19	18	18	16	240
認知症加算【1】	4	5	3	5	5	6	6	7	7	6	5	4	63
認知症加算【2】	3	3	3	3	4	4	4	1	1	1	1	1	29
初期加算【延べ日数】	9	18	25	17	0	19	0	11	19	0	31	0	149
看取り連携体制加算	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	30

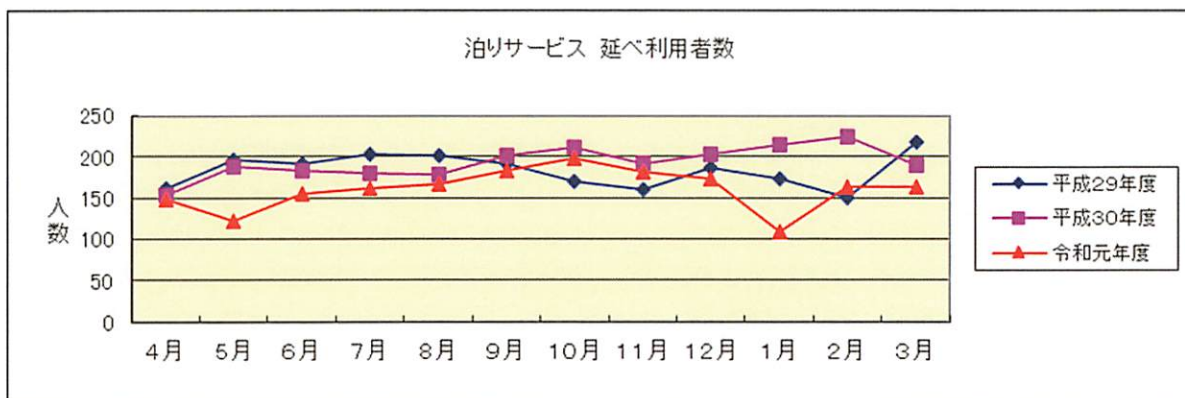
令和元年度のサービス提供は、通いサービスが1日平均 11. 6、泊りサービスが1日平均 6. 4、訪問サービスが1日平均 2でした。

平成 30 年度と比べて、通いサービスが1日平均 11.6 であったものが 11.3、泊りサービスが1日平均 6.4 であったものが 5.3、訪問サービスが1日平均 2 であったものが 1.6 となり、通いサービス・訪問サービス・泊りサービス共に、登録者数はあまり変わりありませんが、サービス量は減少となっております。

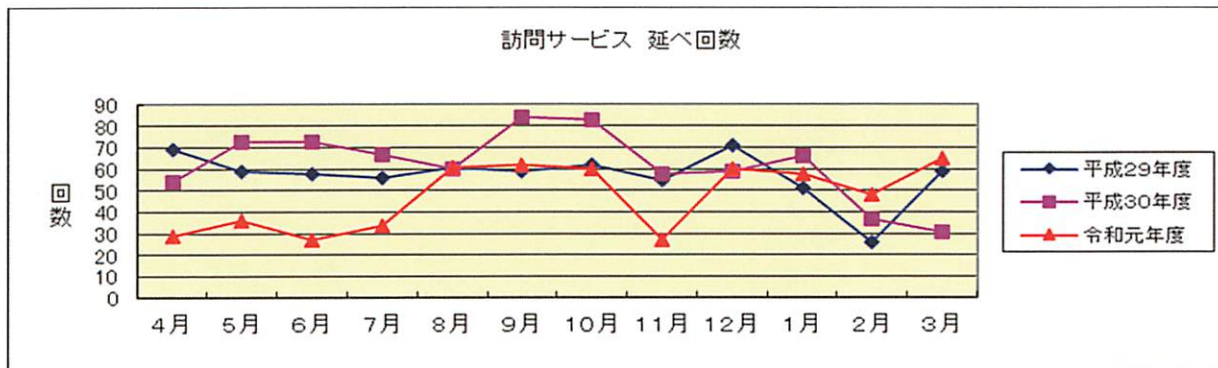
通いサービス												
サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成29年度	328	370	359	365	365	364	344	317	328	309	248	377
平成30年度	295	343	352	354	338	376	376	350	363	367	366	369
令和元年度	333	327	344	369	358	370	389	371	371	294	310	302



泊りサービス												
サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成29年度	162	196	191	203	202	192	171	161	187	173	150	218
平成30年度	153	189	184	180	179	201	212	192	204	215	224	190
令和元年度	148	122	156	162	167	183	198	181	174	109	164	163



訪問サービス												
サービス内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成29年度	69	59	58	56	61	59	62	55	71	51	26	59
平成30年度	54	73	73	67	60	84	83	58	59	66	37	31
令和元年度	29	36	27	34	61	62	60	27	60	58	48	65



2 職員の研修について

重点目標の1つでもありました、職員同士がスキルアップし統一性と作業効率を上げていく為に、内部研修を行いました。外部研修には、数名の職員しか参加できませんでした。前年度が研修参加職員に偏りがあった状況でしたので、参加する研修内容と職員を考えて参加しました。

内部研修については、定期的の実施出来ました。

職員研修	
4月	
5月	
6月	内部研修(認知症ケア・プライバシー・身体拘束)
7月	
8月	明るい介護職場づくり塾【1】
9月	高齢者虐待防止研修・認知症ケアについての勉強会 明るい介護職場づくり塾【2】・内部研修 内部研修(感染症・食中毒・リスクマネジメント)
10月	明るい介護職場づくり塾【3】
11月	内部研修(感染症及び食中毒) 明るい介護職場づくり塾【4】
12月	内部研修(非常災害時の対応) 明るい介護職場づくり塾【5】
1月	高齢者虐待防止研修 明るい介護職場づくり塾【6】
2月	
3月	

3 地域・家族との関わりについて

重点目標の1つである地域・家族との繋がりを強化する目的で、食事会(利用者・家族)・茶話会(家族会)を行いました。食事会 登録者21名の内、利用者13名 7家族11名の参加、茶話会 登録者22名の内、9家族13名の参加がありました。家族より、第2回目で、ゆっくり話しが出来て良かった。他の家族と悩みを共有することで精神的に大変良かったとの声を頂きました。

運営基準に定められた運営推進会議を、自治会長、早津崎民生員、尚寿会早津崎支部長、久留米市担当者、包括支援センター職員、利用者、利用者家族、職員にて行い、みづま館小規模多機能型居宅介護事業所の利用者の利用状況及び取り組みに関して報告を行い、運営に対してそれぞれの立場での意見を聴取し、出来るだけ運営の改善として取り入れるよう努めました。☆ 運営推進会議 (5月 7月 9月 11月 1月 【3月は中止】) 計5回実施

令和元年度	地域行事	みづま館行事
4月	溝さらい	バスハイク(七木地蔵)・避難訓練
5月		家族と食事会・フラワーアレンジメント
		母の日・誕生会
6月		美希保育園との交流会・誕生会・父の日
7月	空き缶拾い	納涼祭(中止)・七夕会・誕生会
8月	三潞地区高齢者支援地域づくり会議	ミニ夏祭り・誕生会
9月		敬老会・誕生会
10月	イキイキ介護予防フェスタ	避難訓練・おやつ作り・誕生会
		バスハイク(コスモス見学)
11月		茶話会(家族会)・誕生会
12月	コミセン掃除	フラワーアレンジメント・誕生会
12月		クリスマス・忘年会、餅つき大会
1月		新春福笑い会・誕生会・ほっけんぎょ見学
2月		中止
3月		避難訓練(事業所のみ)

4 広報活動の強化について

計画では、4ヶ月に1回、行事の内容・写真等を地域の回覧板に載せて頂く事を目標に上げており、目標どおり実施することが出来ました。しかし、運営推進会議で、評価を尋ねたところ「わかりやすくいいよ」という言葉と、「あまり見ていなかった」との声を頂く。継続していく必要があると考えます。

5 今後の課題について

令和元年度の事業計画に上げておりましたが、事業実施計画について回数等は達成出来ない計画もありましたが、計画通り行うことは出来たと考えております。しかし、新型コロナウイルスの影響で行事・研修・運営推進会議等は、落ち着くまでは行えない状況にありますが、状況を見ながら、出来る事を行っていかうと考えております。新規受入れは積極的に行い、利用者数を増加させます。

定期的に、感染症対策を職員で確認しながら、利用者だけでなく、職員も感染せずに、業務に従事できるようにおこなっていきたいと考えます。

みづま館認知症対応型通所介護事業所

平成 31 年度事業報告書

令和元年度の事業計画での重点目標であった 1、広報活動は、地域行事への参加や地域の勉強会などが減り、また独自の広報紙作成が出来ず広報活動が積極的には行えませんでした。 2、特色を活かした事業の展開は、季節行事や地域の人と行事を通しての交流など行い社会参加等行えましたが家族の相談を聞く時間や交流をする機会が少なかった様に思います。 3、職員の技術・知識の向上に関しては、積極的に勉強会や内部研修は行いましたが外部研修参加が少なかったです。

これを踏まえ今後の課題としましては、認知症ケアの研修に積極的に参加し、事業の在り方を考え、職員の考え方や意識の統一に力を入れ、色々なケースの認知症の方に対しての処遇面の充実やその家族が安心して過ごせるようなきめ細やかなサービスの提供、また利用者家族と交流を深めていく必要があると考えます。広報活動にも取り組み、ホームページの活用・地域や居宅支援事業所等への情報提供・意見交換等にも力を入れていき新規利用者獲得へ繋いでいきたいと思っています。

◎収支状況

○ 収入

	令和元年度目標数	令和元年度実績	達成率
利用者延べ数	2100(月175)	1667(月139)	79%
総収入	・介護報酬 22,816,000 ・利用料収入 1,275,000 ・合計 24,091,000	・介護報酬 18,378,663 ・利用料収入 1,013,510 合計 19,392,173	80.50%

○ 支出

	予算額	実績額	執行率
事業費支出	2,943,000	2,497,383	84.86%
事務費支出	1,249,000	925,686	74.11%
人件費	18,712,022	人件費率 96%	職員増減数 増1名・減1名

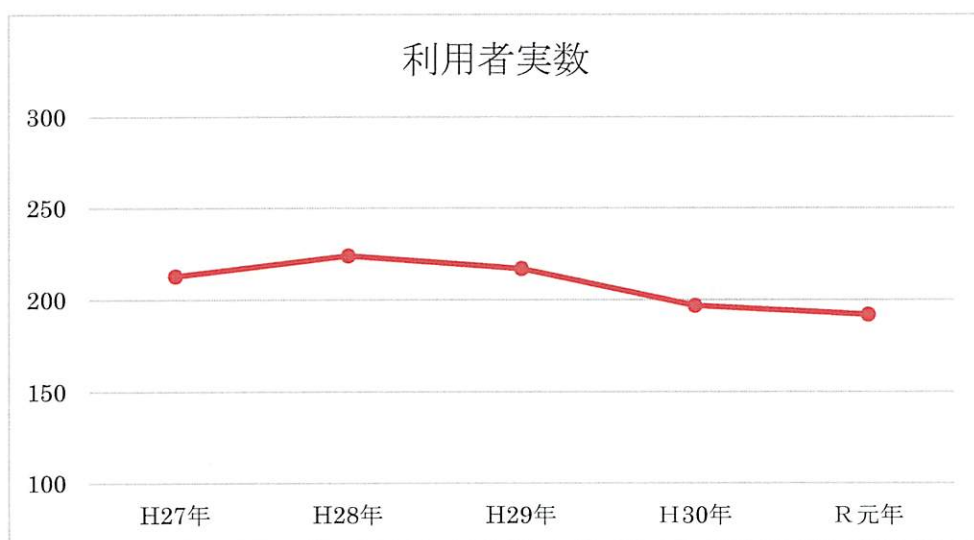
◎ 利用状況について

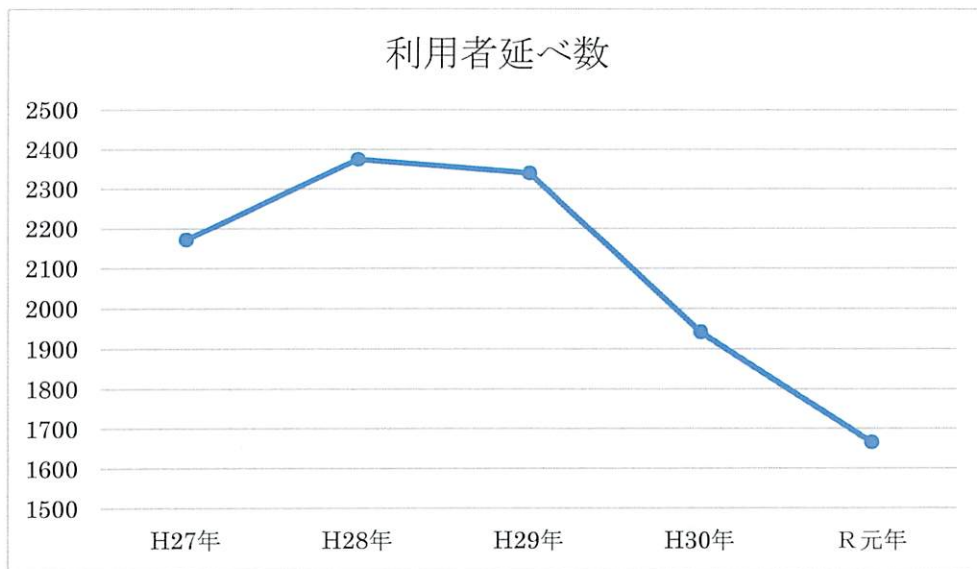
令和元年度は、新規利用者 4 名あり、登録解除者が 3 名となりました。また表を観ても分かりますように、登録者数は前年度とあまり変わりはありませんが、延べ数が大幅に減少しており 1 人当たりの利用回数が減っている事が分かります。

年度別利用者数

	利用者数(実人数)					利用者数(延べ数)				
	H27 年	H28 年	H29 年	H30 年	R元年	H27 年	H28 年	H29 年	H30 年	R元年
4 月	19	17	20	16	16	184	191	203	174	131
5 月	18	18	20	16	16	163	197	218	183	142
6 月	17	18	19	17	15	175	204	218	179	112
7 月	18	19	20	16	16	187	204	203	183	142
8 月	18	20	18	16	16	191	221	199	180	129
9 月	19	20	18	17	17	206	213	101	171	138
10 月	19	19	16	18	17	204	211	191	170	153
11 月	19	18	18	18	17	199	183	192	153	156
12 月	17	17	18	17	16	175	182	192	159	148
1 月	16	18	18	16	16	157	180	188	127	143
2 月	16	19	17	15	16	162	167	157	124	142
3 月	17	21	16	15	14	169	222	187	139	131
合計	213	224	217	197	192	2172	2375	2340	1942	1667

(新規利用者数 4 名 登録解除者数 3 名)





※登録解除理由

- ・ 入所 1 名 ・ 小規模へ移行 1 名
- ・ 死亡 1 名

利用者延べ数年度別対比

	利用者延べ数年度対比(%) 1日定員12名を100%とする				
	H27 年	H28 年	H29 年	H30 年	R元年
4 月	59	61.2	67.7	58.0	42.0
5 月	54.3	63.1	67.3	56.5	45.5
6 月	56.1	65.3	65.1	57.4	37.3
7 月	57.7	65.3	69.9	58.7	43.8
8 月	61.2	68.2	61.4	55.6	43.0
9 月	66	68.3	61.5	57.0	46.0
10 月	63	67.6	61.2	54.5	47.2
11 月	66.3	58.7	61.5	49.0	50.0
12 月	54	56.2	61.5	53.0	47.4
1 月	52.3	57.7	60.2	42.3	45.8
2 月	54	58.4	58.0	43.1	47.3
3 月	52.2	68.8	57.7	44.6	42.0
平均	58.0	63.2	62.8	52.5	44.8

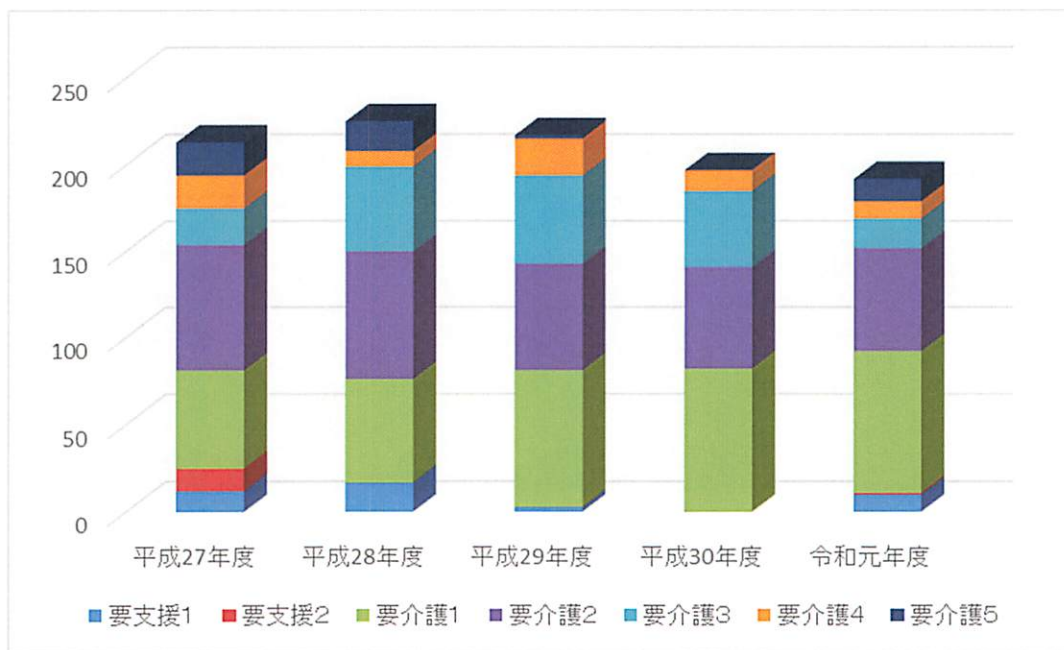
◎介護度別利用者数

要介護１・２の利用者が多く利用されています。

介護度別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	10
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
要介護1	7	7	7	7	7	8	7	6	6	6	7	6	81
要介護2	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	60
要介護3	1	1	0	1	1	1	2	2	2	2	2	2	17
要介護4	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	13
平均	1.71	1.71	1.76	1.84	1.84	1.79	1.9	2.14	1.96	1.96	1.9	2.07	

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
平成27年度	12	13	56	73	21	19	19
平成28年度	17	0	59	74	49	9	17
平成29年度	3	0	78	62	51	21	2
平成30年度	0	0	82	59	44	12	0
令和元年度	10	1	81	60	17	10	13



◎入浴実施数

入浴介助数は、前年度と比べ延べ数が減少している分、入浴介助数も減少しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	13	13	12	12	12	13	12	11	11	11	11	10	
延べ人数	113	110	83	113	104	95	114	112	104	102	107	100	1257
平成30年	155	151	158	155	151	137	147	132	123	106	96	116	1627

◎年齢別利用者数

令和2年3月現在の登録者の平均年齢は、84.3歳でした。30年度と比較し平均年齢はほとんど変わりませんでした。

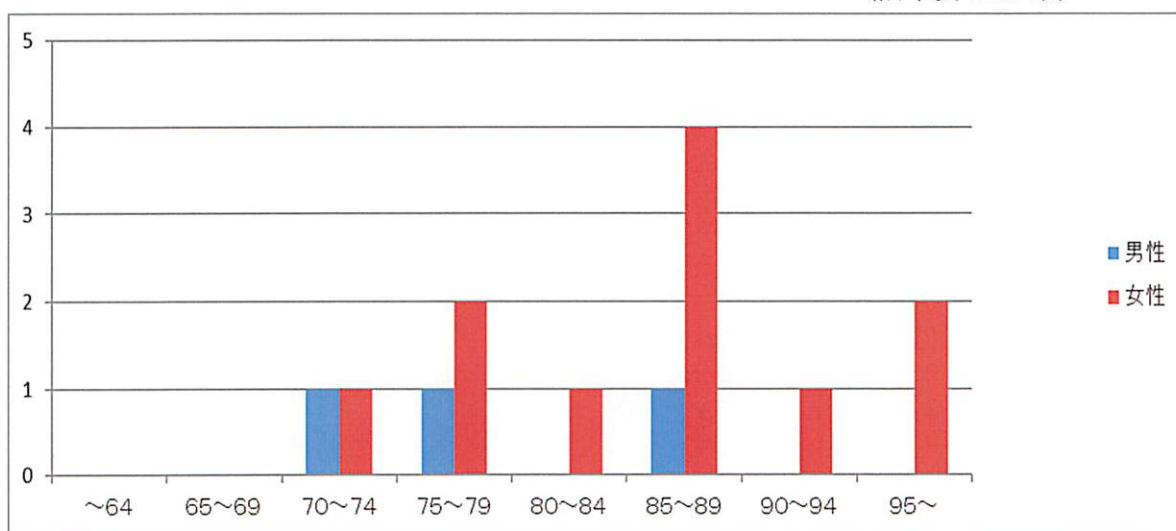
年齢別

令和2年3月31日現在

年齢別		～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	計
人員	男	0	0	1	1	0	1	0	0	3
	女	0	0	1	2	1	4	1	2	11
	計	0	0	2	3	1	5	1	2	14
前年度	計	0	0	2	1	4	5	2	1	15

平均年齢 84.3 歳

(前年度 84.2 歳)



令和2年3月現在

男性：3名

女性：11名

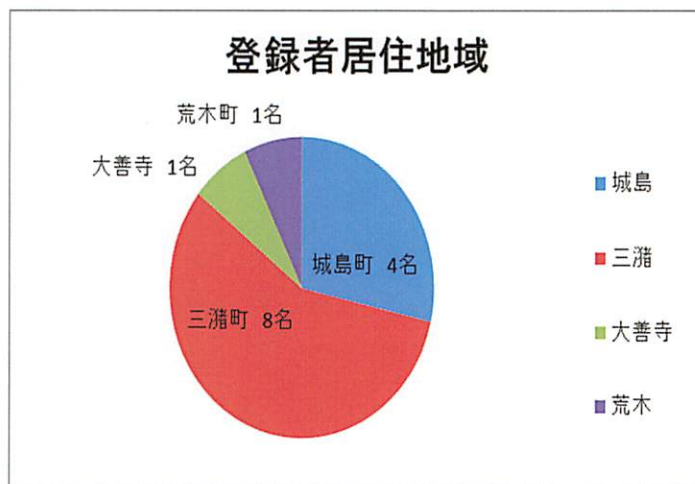
◎登録者居住地別一覧

前年度と変わらず、三潯町からの利用が半数以上利用されています。

登録者の居住地別一覧表

居住地	登録者数
城島	4
三潯	8
大善寺	1
荒木	1

令和2年3月31日現在



◎運営推進会議について

- ・9月に1回目の運営推進会議を開催し、運営基準に定められた自治会長、早津崎民生員、尚寿会早津崎支部長、久留米市担当者、包括支援センター職員、利用者、利用者家族、職員にて利用者の利用状況及び取り組みに関して報告を行い、運営に対してそれぞれの立場での意見を拝聴し、運営の改善に努めました。
- ・2回目3月の運営推進会議は、新型コロナウイルス感染防止のために会議を中止しています。

◎職員研修について

重点目標でもありました職員の技術・知識の向上は、現場の状況を見ながら職員
の声を聞き、内部研修や勉強会の実施を行っています。

外部研修参加はあまり出来ませんでした。

職員研修	内部研修	外部研修
4月		
5月	認知症について	認知症初任者研修
6月	主任研修	
7月		
8月		
9月	認知症ケア	高齢者虐待防止研修
10月	感染症予防研修 認知症の人を支援する 主任研修	
11月	感染症対策・対応研修	認知症ケアマネジメントスキルアップ研修
12月	アンガーマネジメント	
1月		
2月	利用者本位のサービスを目指して・異物除去法	
3月	感染症対策・対応研修(ガウンテクニック等)	

◎行事について

年度前半は、園芸活動や恒例のじゃがいも芋掘りなど季節感をあじわう行事を取り入れていき、バスハイクや外食などの外出行事も行い、日頃とは違う表情を見ることが出来ました。

令和元年度	行事
4 月	桜の花見 避難訓練
5 月	バスハイク(成田山・七木地蔵)・外食 じゃがいも掘り
6 月	美希保育園児との交流会
7 月	七夕会
8 月	ミニ夏祭り
9 月	敬老祝賀会
10 月	おやつ作り 公園散策(ゆうゆう・十連) 避難訓練
11 月	園芸活動
12 月	クリスマス・忘年会 餅つき
1 月	福笑い会
2 月	節分(豆まき)
3月	

※毎月の誕生会・体重測定

- ・台風の為納涼祭中止
- ・3月の行事は、新型コロナウイルス感染防止のため中止しました。
- ・家族会も新型コロナウイルス感染防止のため中止しています。

・地域行事

令和元年	
4月	
5月	
6月	
7月	
8月	ほのぼの会見学（地域との意見交換会）
9月	
10月	イキイキ介護予防フェスタ in みづま
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

- ・地域の行事や予防教室などへの参加が減り、地域行事も3月は、新型コロナウイルスの影響のため中止となりました。